

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の2第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 2022年9月13日

【事業年度】 第60期(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

【会社名】 ムトー精工株式会社

【英訳名】 MUTO SEIKO CO.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 田 中 肇

【本店の所在の場所】 岐阜県各務原市鵜沼川崎町一丁目60番地の1

【電話番号】 058-371-1100 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部担当 金 子 貞 夫

【最寄りの連絡場所】 岐阜県各務原市鵜沼川崎町一丁目60番地の1

【電話番号】 058-371-1100 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部担当 金 子 貞 夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

当社は、2022年7月22日付けの「特別調査委員会設置及び2023年3月期第1四半期決算発表の延期に関するお知らせ」で公表しました通り、2023年3月期第1四半期の決算作業の過程で、当社の連結子会社であるタチバナ精機株式会社において、棚卸資産に関する不適切な会計処理の疑義があることを認識しました。かかる事態を受け、当社は2022年7月22日に外部の有識者のみで構成する特別調査委員会を設置し、調査を進めて参りました。

当社は2022年9月13日に特別調査委員会から調査報告書を受領し、棚卸資産の架空計上及び滞留在庫の過大評価等の不適切な会計処理の修正が必要と判断をいたしました。

これに伴い当社は、過去に提出済みの有価証券報告書等に記載されております連結財務諸表及び四半期連結財務諸表で対象となる部分について訂正することにいたしました。

なお、訂正に際しては、過年度において重要性の観点から訂正を行っていなかった事項の訂正も併せて行っております。

これらの決算訂正により、当社が2020年6月25日に提出いたしました第60期（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）に係る有価証券報告書の記載事項の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき、有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の連結財務諸表については、有限責任 あずさ監査法人の監査を受けており、その監査報告書を添付しております。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

第2 事業の状況

2 事業等のリスク

3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

第5 経理の状況

1 連結財務諸表等

監査報告書

3 【訂正箇所】

訂正箇所は____を付して表示しております。

なお、訂正箇所が多数に及ぶことから、上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第56期	第57期	第58期	第59期	第60期
決算年月		2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高	(千円)	22,474,217	<u>24,085,294</u>	25,813,663	<u>23,376,127</u>	<u>20,848,629</u>
経常利益又は経常損失(△)	(千円)	△215,084	<u>651,697</u>	<u>1,130,272</u>	<u>1,144,623</u>	<u>1,183,399</u>
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	(千円)	△2,254,637	<u>267,541</u>	<u>923,119</u>	<u>29,530</u>	<u>631,336</u>
包括利益	(千円)	△3,481,543	<u>△152,993</u>	<u>732,904</u>	<u>97,862</u>	<u>89,582</u>
純資産額	(千円)	11,540,531	<u>11,228,486</u>	<u>11,907,098</u>	<u>11,728,826</u>	<u>11,681,987</u>
総資産額	(千円)	22,105,900	<u>23,137,268</u>	<u>23,157,856</u>	<u>22,804,129</u>	<u>21,146,431</u>
1株当たり純資産額	(円)	1,505.17	<u>1,468.76</u>	<u>1,562.54</u>	<u>1,536.20</u>	<u>1,533.85</u>
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)	(円)	△313.71	<u>37.23</u>	<u>128.45</u>	<u>4.11</u>	<u>87.85</u>
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	(円)	—	—	—	—	—
自己資本比率	(%)	48.94	<u>45.62</u>	<u>48.49</u>	<u>48.41</u>	<u>52.13</u>
自己資本利益率	(%)	△17.92	<u>2.52</u>	<u>8.47</u>	<u>0.27</u>	<u>5.72</u>
株価収益率	(倍)	—	<u>14.37</u>	<u>9.50</u>	<u>141.36</u>	<u>4.53</u>
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	1,493,619	1,606,732	2,492,833	2,985,124	2,303,968
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△1,830,803	△1,979,750	△1,367,980	△1,892,154	△1,303,368
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	890,517	1,480,892	△684,001	△515,232	△956,483
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	4,638,493	5,527,985	5,923,531	6,640,617	6,414,412
従業員数 〔ほか、平均臨時雇用人員〕	(名)	4,334 〔423〕	4,549 〔676〕	4,424 〔690〕	4,223 〔352〕	3,801 〔279〕

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、第57期、第58期、第59期及び第60期におきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

第56期におきましては、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第56期の親会社株主に帰属する当期純利益の大幅な減少は、固定資産に係る多額の減損損失の計上等によるものであります。

4. 第56期の株価収益率については、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

5. 第57期の平均臨時雇用人数が第56期の平均臨時雇用人数に比べ、253名増加しておりますが、その主な理由は、ムトーベトナムCO., LTD. の受注対応に伴う人員補充による増加であります。

また、第59期の平均臨時雇用人数が第58期の平均臨時雇用人数に比べ、338名減少しておりますが、その主な理由は、ムトーベトナムCO., LTD. の受注減少に伴う人員削減による減少であります。

また、第60期の従業員数が第59期の従業員数に比べ、422名減少しておりますが、その主な理由は、ムトーベトナムCO., LTD. 及び豊武光電有限公司の受注減少に伴う人員削減による減少であります。

6. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第59期の期首から適用しており、第58期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第56期	第57期	第58期	第59期	第60期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高 (千円)	9,247,395	11,114,232	10,831,595	8,224,158	8,171,500
経常利益 又は経常損失(△) (千円)	△491,595	341,945	1,194,468	401,841	395,522
当期純利益 又は当期純損失(△) (千円)	△3,077,789	△126,160	1,216,187	△197,500	360,737
資本金 (千円)	2,188,960	2,188,960	2,188,960	2,188,960	2,188,960
発行済株式総数 (株)	7,739,548	7,739,548	7,739,548	7,739,548	7,739,548
純資産額 (千円)	4,217,364	4,101,151	5,279,648	4,804,340	5,043,752
総資産額 (千円)	11,570,601	12,420,593	14,766,953	14,114,938	13,092,557
1株当たり純資産額 (円)	586.81	570.64	734.63	668.50	701.81
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額) (円)	16.00 (8.00)	— (—)	26.00 (—)	16.00 (8.00)	17.50 (8.00)
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失(△) (円)	△428.25	△17.55	169.22	△27.48	50.19
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	36.45	33.02	35.75	34.04	38.52
自己資本利益率 (%)	△52.73	△3.03	25.93	△3.92	7.33
株価収益率 (倍)	—	—	7.21	—	7.93
配当性向 (%)	—	—	15.36	—	34.86
従業員数 〔ほか、平均臨時雇用人員〕 (名)	227 〔34〕	231 〔32〕	223 〔31〕	220 〔30〕	214 〔31〕
株主総利回り (%) (比較指標：JASDAQ INDEX) (%)	86.7 〔98.9〕	95.0 〔119.9〕	217.6 〔159.0〕	110.2 〔137.6〕	81.4 〔119.9〕
最高株価 (円)	730	584	1,985	1,299	885
最低株価 (円)	419	373	464	470	351

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、第58期及び第60期におきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

第56期、第57期及び第59期におきましては、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第56期の当期純利益の大幅な減少は、固定資産に係る多額の減損損失及び関係会社出資金評価損の計上等によるものであります。

4. 第56期、第57期及び第59期の株価収益率及び配当性向については、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

5. 最高株価及び最低株価は、東京証券取引所市場JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

6. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第59期の期首から適用しており、第58期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【沿革】

提出会社は、1956年6月、岐阜県岐阜市において、創業者であります故武藤昭三がプラスチック部品の受託製造を目的とした個人営業を開始し、1961年1月に有限会社武藤合成樹脂工業所を設立いたしました。1965年10月、本社を岐阜県各務原市へ移転させたのち、1968年4月には、金型製造を目的とした子会社東立精工株式会社を設立しました。ムトー精工株式会社設立以後の企業集団に係る経緯は、次のとおりであります。

年月	概要
1970年6月	株式会社に改組し、武藤合成株式会社を設立。
1975年7月	ソニー(株)と取引開始。
1975年8月	岐阜県各務原市に川崎工場を開設。
1979年10月	川崎工場を増築し、量産設備を全面移転。
1982年9月	関東地区への販売拡大のため東京都中央区に東京営業所を設置。
1985年3月	東立精工株式会社を吸収合併、金型製造を内製化。商号をムトー精工株式会社へ変更。
1986年5月	本社及び金型部門を所在地へ新築移転。
1987年10月	生産能力の拡大のため茨城県稲敷郡阿見町に筑波工場開設。
1988年6月	株式会社花田製作所を吸収合併。金型部門を拡充。
1991年4月	川崎工場を増築し、名称を岐阜工場へ変更。
1993年7月	日本証券業協会に株式を店頭登録。
1995年6月	子会社ムトーベトナムCO., LTD. 設立(現・連結子会社)。
1996年1月	岐阜工場ISO9002認証取得。
1998年8月	東京営業所を千代田区へ移転。
1999年12月	本社、岐阜工場ISO14001認証取得。
2000年10月	子会社ムトーシンガポールPTE LTD設立(現・連結子会社)。
2001年2月	筑波工場を稲敷郡美浦村へ移転し、名称を筑波事業所へ変更。
2001年7月	テクニカルセンター(岐阜市)において、塗装、印刷業務を開始。
2002年1月	岐阜工場を中心とした国内生産体制の再編のため、筑波事業所(稲敷郡美浦村)を閉鎖。
2003年9月	子会社大英エレクトロニクス(株)を買収(現・連結子会社)。
2003年11月	関連会社豊武光電(蘇州)有限公司設立(現・連結子会社)。
2004年12月	株式会社ジャスダック証券取引所に株式を上場。
2005年2月	子会社ムトーテクノロジーハノイCO., LTD. 設立(現・連結子会社)。
2005年9月	子会社武藤香港有限公司設立(現・連結子会社)。
2006年3月	子会社武藤精密工業(太倉)有限公司設立。
2007年1月	子会社タチバナ精機(株)・ハントンスプリングインダストリーズSDN. BHD. を買収(現・連結子会社)。
2007年7月	子会社武藤精密工業(太倉)有限公司解散。
2010年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所(JASDAQ市場)に株式を上場。
2010年10月	大阪証券取引所へラクレス市場、同取引所JASDAQ市場及び同取引所NEO市場の各市場の統合に伴い、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場。
2012年1月	大分県速見郡日出町に大分営業所を新設。
2012年2月	子会社ムトー(タイランド)CO., LTD. 設立(現・連結子会社)。
2012年10月	東京営業所を八王子市へ移転。
2013年7月	大阪証券取引所と東京証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場。
2016年7月	東京営業所を所在地(千代田区)へ移転。
2017年10月	大分営業所(速見郡日出町)を閉鎖。

3 【事業の内容】

当企業集団は、当社、連結子会社9社(ムトーベトナムCO.,LTD.、ムトーシンガポールPTE LTD、大英エレクトロニクス(株)、豊武光電(蘇州)有限公司、ムトーテクノロジーハノイCO.,LTD.、武藤香港有限公司、タチバナ精機(株)、ハントンスプリングインダストリーズSDN. BHD. 及びムトー(タイランド)CO.,LTD.)で構成され、事業としてプラスチック成形用金型及びプラスチック精密部品の製造・販売、各種設計業務並びに技術支援等のサービス業務、プリント配線基板の設計・検査・販売及び音響機器、映像機器、光学機器、コンピュータ関連機器等の精密プレス部品製造・販売を行っております。

当社及び当社の関係会社の事業における当社及び関係会社の位置づけ及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、以下に示す区分は、セグメントと同一の区分であります。

プラスチック成形事業

当事業においては、デジタルカメラ・ビデオカメラ等のデジタル家電、カーナビゲーション・エアコン・オーディオを含むセンターパネルユニット、ETC等の自動車関連機器及び電子ペンの製造・販売、それに伴う金型の製造・販売及び各種設計業務並びに技術支援等のサービス業務を行っております。

(主な関係会社)当社、ムトーベトナムCO.,LTD.、ムトーシンガポールPTE LTD、豊武光電(蘇州)有限公司、ムトーテクノロジーハノイCO.,LTD.、武藤香港有限公司及びムトー(タイランド)CO.,LTD.

精密プレス部品事業

当事業においては、音響機器、映像機器、光学機器、コンピュータ関連機器等の精密プレス部品の製造・販売を行っております。

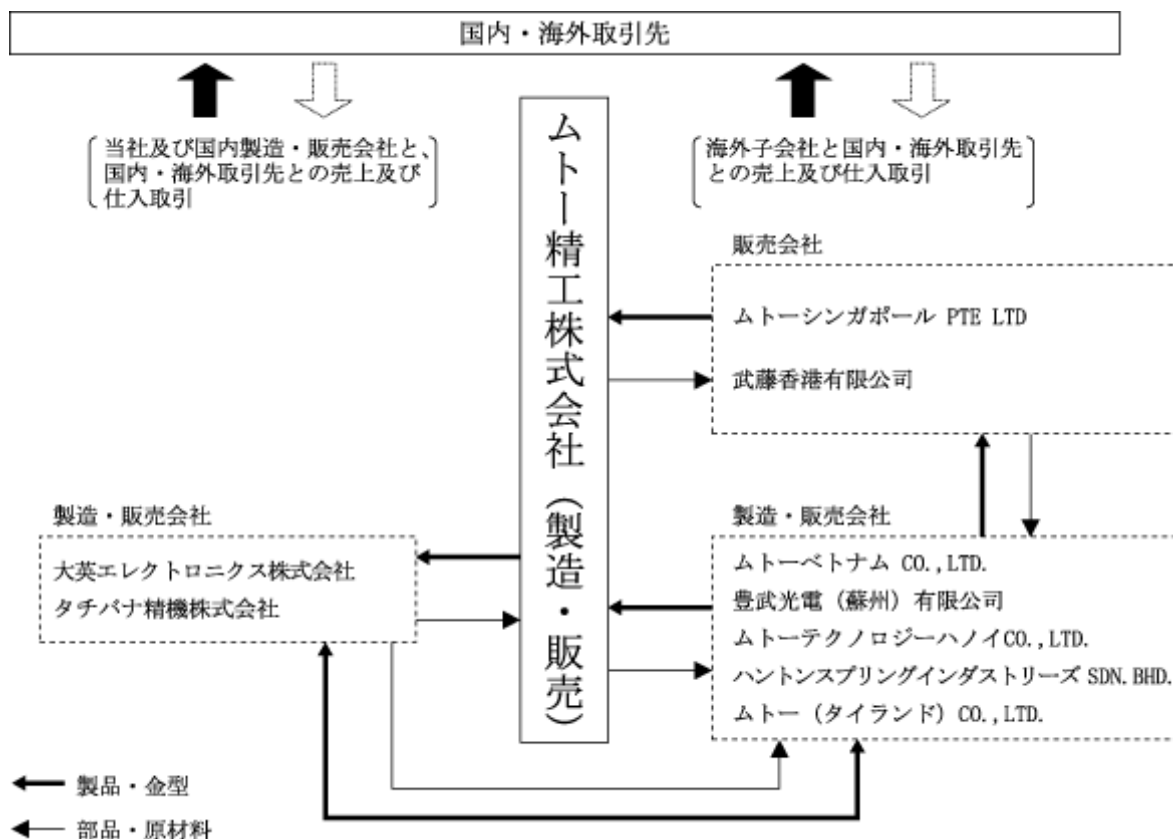
(主な関係会社)タチバナ精機(株)及びハントンスプリングインダストリーズSDN. BHD.

プリント基板事業

当事業においては、プリント配線基板の設計・検査・販売を行っております。

(主な関係会社)大英エレクトロニクス(株)

事業の系統図は、次のとおりであります。



上記の販売会社及び製造・販売会社は、全て連結子会社であります。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業 の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容
(連結子会社) ムトーベトナムCO., LTD. (注) 2	BIENHOA, DONG NAI PROVINCE, VIETNAM	千米ドル 11,800	プラスチック成形 用金型及び部品の 製造販売	100.0	主にプラスチック成形用金 型及び製品を当社及び当社 子会社へ納入しています。 役員の兼任 2名
(連結子会社) ムトーシンガポール PTE LTD (注) 2、4	ANSON ROAD SINGAPORE	千シンガポール ドル 5,150	プラスチック成形 用部品及び原材料 の仕入販売	100.0	主にプラスチック成形用部 品及び原材料を当社子会社 へ納入し、当社子会社から のプラスチック製品を海外 取引先へ納入しておりま す。 役員の兼任 2名
(連結子会社) 大英エレクトロニクス 株式会社	東京都八王子市	千円 80,000	プリント配線基板 の設計、検査、販 売	99.8	主にプリント配線基板の設 計、検査をムトーベトナム にて行っております。 役員の兼任 2名
(連結子会社) 豊武光電(蘇州) 有限公司 (注) 2、5	中華人民共和國 江蘇省太倉市	千米ドル 16,725	プラスチック成形 用金型及び部品の 製造販売	80.0	主にプラスチック成形用金 型及び製品を中国国内、当 社及び当社子会社へ納入し ています。 役員の兼任 2名
(連結子会社) ムトーテクノロジー ハノイCO., LTD. (注) 1、2、6	MELINH DISTRICT, HANOI, VIETNAM	千米ドル 15,000	プラスチック成形 用金型及び部品の 製造販売	100.0 (20.0)	主にプラスチック成形用金 型及び製品をベトナム国 内、当社及び当社子会社へ 納入しています。 役員の兼任 2名
(連結子会社) 武藤香港有限公司 (注) 1	JORDAN, KOWLOON, HONGKONG	千香港ドル 1,000	プラスチック成形 用部品及び原材料 の仕入販売	100.0 (100.0)	主にプラスチック成形用部 品及び原材料を当社子会社 へ納入し、当社子会社から のプラスチック製品を海外 取引先へ納入しておりま す。 役員の兼任 2名
(連結子会社) タチバナ精機株式会社	大阪府東大阪市	千円 19,800	精密プレス部品の 製造販売	100.0	主に精密プレス部品をハン トンスプリング及びムトー ベトナムより仕入れており ます。 役員の兼任 4名
(連結子会社) ハントンスプリング インダストリーズ SDN. BHD. (注) 1	JOHOR, MALAYSIA	千マレーシア リングギット 500	精密プレス部品の 製造販売	99.9 (99.9)	主に精密プレス部品をタチ バナ精機(株)へ納入しており ます。 役員の兼任 2名
(連結子会社) ムトー(タイランド) CO., LTD. (注) 2	HEMARAJ SARABURI INDUSTRIAL LAND, NONG KHAE DISTRICT, SARABURI THAILAND	千タイバーツ 700,000	プラスチック成形 用金型及び部品の 製造販売	100.0	主にプラスチック成形用金 型及び製品を当社及び当社 子会社へ納入しています。 役員の兼任 1名

(注) 1. 「議決権の所有(又は被所有)割合」欄の(内書)は間接所有であります。

2. ムトーベトナムCO., LTD.、ムトーシンガポールPTE LTD、豊武光電(蘇州)有限公司、ムトーテクノロジーハノイCO., LTD. 及びムトー(タイランド)CO., LTD. の5社は、特定子会社に該当します。

3. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

4. ムトーシンガポールPTE LTDについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	① 売上高	2,773,032千円
	② 経常利益	147,672千円
	③ 当期純利益	136,382千円
	④ 純資産額	1,131,681千円
	⑤ 総資産額	1,558,061千円

5. 豊武光電(蘇州)有限公司については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	① 売上高	3,494,179千円
	② 経常利益	275,869千円
	③ 当期純利益	212,404千円
	④ 純資産額	3,416,981千円
	⑤ 総資産額	3,745,011千円

6. ムトーテクノロジーハノイCO., LTD. については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	① 売上高	4,064,330千円
	② 経常利益	579,175千円
	③ 当期純利益	489,476千円
	④ 純資産額	2,940,843千円
	⑤ 総資産額	3,667,998千円

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2020年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
プラスチック成形事業	3,659 (182)
精密プレス部品事業	117 (97)
プリント基板事業	25 (-)
合計	3,801 (279)

- (注) 1. 従業員数は、就業人員であります。
2. 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員(パートタイマー)の当連結会計年度の平均雇用人員であります。

(2) 提出会社の状況

2020年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
214 (31)	42.7	15.4	5,060,721

セグメントの名称	従業員数(名)
プラスチック成形事業	214 (31)

- (注) 1. 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員であります。
2. 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員(パートタイマー)の年間平均雇用人員であります。
3. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておきませんが、労使関係については円満な関係にあり、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループは、「お客様第一」を基本に、より精密で高機能のプラスチック部品を供給することにより社会に貢献できる企業を目指しております。

高度に変化するお客様の要望に柔軟に対応し、常に最新の技術を取り入れ、様々なニーズに最適な「もの作り」を提供することにより、企業価値の増大を図ることを会社経営の基本方針としております。

当社グループでは、金型及びプラスチック部品を中心としたメカニカルパーツの分野で構築した、技術力とノウハウを最大限に活用し、従来のデジタル家電・自動車関連機器のみならず、ゲーム機器、情報通信、精密機器などの幅広い分野での受注を増大させ事業の拡大・成長を目指します。より高度化するお客様からの品質、価格、納期及び環境などに対する要求を満たすために様々な施策を実施してまいります。

特に下記の5点を重要課題として取り組んでおります。

(1) 一貫生産体制による業務の効率化

金型設計・製造から、組立ライン設計・治具工具製作・試作・検査・成形・組立・二次加工までの一貫生産体制を活かし、設計期間の短縮や最適なコスト技術を提案することにより受注を拡大してまいります。

(2) 生産、調達の国際化

製造のグローバル化に対処し、日本・ベトナム・中国・マレーシア及びタイの5ヶ国の生産拠点から、ワールドワイドに最適な製品供給体制を確立します。海外生産拠点の技術力の向上を図り、海外企業間の直接取引を拡大し、連結業績の向上を目指します。

(3) 国内生産体制の強化

国内の生産体制は、今後の激化が予想される国際競争に打ち勝つ生産性の向上を目指して見直し、プラスチック成形だけでなく、塗装・印刷や電子部品及びプレス部品の組込み等、製品のユニット化を推進し、付加価値の増大を図ってまいります。

(4) 環境保全への取り組み

今後、プラスチック業界は環境への一層の配慮が求められる時代になるものと考えます。当社グループは、生産性の向上、より高度な製品の製造をするに当たり、環境への配慮などを目的とした技術研究開発を進めてまいります。

(5) 自然災害、ウイルス感染等への取り組み

日本における地震をはじめとした自然災害や新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、生産活動や物流の停滞など、当社グループの事業全体に様々な影響を与えております。このような事態に早急に対応できるよう、事業継続活動（BCP）を常に見直し、災害等に強い生産体制を構築してまいります。

2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 当社グループの事業展開について

当連結会計年度におきまして、当社グループの製品売上高の46.2%は、海外の生産拠点であるムトーベトナムCO.,LTD.、ムトーテクノロジーハノイCO.,LTD.、豊武光電(蘇州)有限公司、ハントンスプリングインダストリーズSDN.BHD.及びムトー(タイランド)CO.,LTD.によって生産しております。現地法人がある各国においては外資企業への税負担の優遇などを受けておりますが、今後の各国の政策により優遇措置が受けられなくなる可能性があります。

また、当社の受注から取引先への出荷までのサイクルが年々短縮されているため、ある程度の見込みによる生産も必要となっておりまゝ。そのため、受注高と見込生産高との差が長期の滞留在庫となる可能性があります。更に、国内及び海外会社における自然災害、陸上・海上輸送中の事故等、不測の事態に伴う生産能力低下に備え、緊急時の外注生産ルートの確保等、生産体制を整備しておりますが、事故等の規模によっては、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(2) 外貨建取引について

当社グループ内の取引は、基本的に米ドルによる取引であり、国内得意先においても当社グループの海外生産のものは米ドルによる取引を行っております。当社は米ドル債権債務のバランスをとり、為替の変動に伴うリスクを最小限にとどめるようにしておりますが、このことにより当該リスクを完全に回避できる保証はなく、今後の為替動向によっては、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(3) 自然災害、ウイルス感染等による事業活動への影響について

地震をはじめとした自然災害や新型コロナウイルスの感染拡大などにより大規模災害が発生した場合は、サプライチェーンの停止等で当社グループの事業全体に大きな影響を与える可能性があります。なお、新型コロナウイルスの感染拡大による経営成績等への影響額につきましては、現時点で合理的に見積もることは困難であります。今後、合理的な見積りが可能となった時点で、速やかに公表いたします。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ(当社及び連結子会社)の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー(以下、「経営成績等」という。)の状況の概要は次のとおりであります。

①財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益の改善や東京オリンピック関連の需要などに支えられ、回復傾向にありました。しかしながら、当第3四半期末以降は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴い、消費の落ち込みや生産活動の停滞などが見られ、減速に転じました。

世界経済におきましては、好調な米国経済や米中通商交渉の進展を背景に、回復基調にありました。一方、新型コロナウイルスの感染拡大の影響などにより、欧米や中国をはじめとした各国で経済の停滞が見られ、先行き不透明な状況が続いております。

当社を取り巻く業界において、自動車関連では、全般的に新車の販売動向は減少傾向にありますが、当社グループが製品を納品している主要車種は順調に推移いたしました。家電分野では、東南アジア方面における需要が堅調な一方で、国内販売は低調が続いております。医療機器関連では、高齢化社会や健康志向の増加に伴う医療ニーズを背景に、全世界的に市場は拡大を続けており、需要も増加傾向にあります。

このような経済環境の中、当社グループにおきましては、外部環境の悪化等による取引先からの受注減に伴い売上高は減少いたしました。付加価値の高い製品の受注と省力化に向けた生産体制の強化を図ってまいりました。その結果、当連結会計年度における業績は、売上高は208億4千8百万円と前年同期と比べ25億2千7百万円(10.8%)の減収、営業利益は固定費の削減などにより10億9千5百万円と前年同期と比べ1億3千万円(13.6%)の増益、経常利益は受取利息の増加及び為替差損の計上などにより11億8千3百万円と前年同期と比べ3千8百万円(3.4%)の増益となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は減損損失の減少などにより6億3千1百万円と前年同期と比べ6億1百万円の増益となりました。

セグメントの経営成績を示すと、次のとおりであります。

プラスチック成形事業

当セグメントにおきましては、得意先からの受注減少の影響が大きく、電子ペン部品などの売上高は減収となりました。しかしながら、ECUケースなどの内部組込部品の受注が拡大した自動車関連部品の売上高は堅調に推移しており、外販を強化し収益率の拡大に注力した金型の売上高も好調を維持いたしました。その結果、当連結会計年度において、売上高はセグメント間の内部売上高を含めて193億6千5百万円と前年同期と比べ19億2千9百万円(9.1%)の減収となりましたが、セグメント利益(営業利益)は12億8百万円と前年同期と比べ2億7千万円(28.8%)の増益となりました。

精密プレス部品事業

当セグメントにおきましては、医療機器向け部品の売上高は堅調に推移しましたが、市場の縮小が続くデジタルカメラ関連部品の売上高は激減し、大幅な減収となりました。自動車向け電装品関係部品におきましても、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で量産の開始時期が遅れるなど、厳しい状況が続いております。その結果、当連結会計年度において、売上高はセグメント間の内部売上高を含めて12億6千8百万円と前年同期と比べ5億5千2百万円(30.4%)の減収となり、セグメント損失(営業損失)は1億3千4百万円(前年同期はセグメント損失(営業損失)1千8百万円)となりました。

プリント基板事業

当セグメントにおきましては、設計部門では、複写機関係が好調でしたが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により米中市場が停滞し、パッケージ基板の設計業務では売上高は減少に転じました。検査部門では、セラミック基板の売上高が大幅に伸びたものの、基板材料メーカーの台風被害による材料不足などを背景に、産業機器や民生品向けの基板の受注が大きく減少し、減収となりました。MID関連の売上高につきましては、MIDの試作品や3DCADの販売が好調で、増収となりました。その結果、当連結会計年度において、売上高はセグメント間の内部売上高を含めて2億9千万円と前年同期と比べ4千7百万円(14.1%)の減収となり、セグメント利益(営業利益)は2千1百万円と前年同期と比べ2千2百万円(50.9%)の減益となりました。

当連結会計年度末における総資産は、211億4千6百万円と前連結会計年度末と比べ16億5千7百万円(7.3%)の減少となりました。流動資産は136億2千4百万円と前連結会計年度末と比べ11億1千1百万円(7.5%)の減少となり、固定資産は75億2千1百万円と前連結会計年度末と比べ5億4千6百万円(6.8%)の減少となりました。

負債につきましては、94億6千4百万円と前連結会計年度末と比べ16億1千万円(14.5%)の減少となりました。流動負債は61億3千万円と前連結会計年度末と比べ14億3千6百万円(19.0%)の減少となり、固定負債は33億3千3百万円と前連結会計年度末と比べ1億7千4百万円(5.0%)の減少となりました。

純資産につきましては、116億8千1百万円と前連結会計年度末と比べ4千6百万円(0.4%)の減少となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は64億1千4百万円と前連結会計年度末と比べ2億2千6百万円(3.4%)の減少となりました。

各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりです。

営業活動によるキャッシュ・フローにつきましては、税金等調整前当期純利益11億3千8百万円(前連結会計年度は税金等調整前当期純利益5億3千1百万円)、非資金費用である減価償却費11億4千万円、売上債権の減少額5億6千3百万円及び法人税等の支払額4億9千1百万円等により、営業活動全体として23億3百万円の収入となり、前連結会計年度と比べ収入が6億8千1百万円(22.8%)の減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローにつきましては、定期預金の預入による支出4億7千3百万円、有形固定資産の取得による支出12億1千1百万円及び定期預金の払戻による収入4億1千7百万円等により、投資活動全体として13億3百万円の支出となり、前連結会計年度と比べ支出が5億8千8百万円(31.1%)の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローにつきましては、短期借入金の純減額6億5千万円、長期借入金の返済による支出13億4千9百万円、配当金の支払額1億1千4百万円及び長期借入れによる収入12億円等により、財務活動全体として9億5千6百万円の支出となり、前連結会計年度と比べ支出が4億4千1百万円(85.6%)の増加となりました。

③生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
プラスチック成形事業	19,322,667	△9.0
精密プレス部品事業	1,190,156	△33.5
プリント基板事業	286,433	△15.3
合計	20,799,257	△11.0

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。
 2. 金額は、販売価格によっております。
 3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

b. 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
プラスチック成形事業	19,071,222	△8.9	1,916,697	△12.4
精密プレス部品事業	1,204,348	△31.4	59,559	△18.5
プリント基板事業	287,792	△14.6	9,940	△12.5
合計	20,563,363	△10.7	1,986,198	△12.6

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

c. 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
プラスチック成形事業	19,341,548	△9.1
精密プレス部品事業	1,217,862	△31.0
プリント基板事業	289,217	△14.5
合計	20,848,629	△10.8

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。
 2. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
Canon Vietnam Co., Ltd.	3,402,445	14.6	2,574,257	12.3

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

①財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

財政状態

(流動資産)

当連結会計年度末の財政状態は、流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ11億1千1百万円減少し、136億2千4百万円となりました。現金及び預金が1億9千万円、受取手形及び売掛金が5億7千9百万円、電子記録債権が9千5百万円、その他(流動資産)が1億4千2百万円それぞれ減少したことなどが主な要因です。

(固定資産)

固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ5億4千6百万円減少し、75億2千1百万円となりました。有形固定資産が5億2百万円減少したことなどが主な要因です。

(流動負債)

流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べ14億3千6百万円減少し、61億3千万円となりました。支払手形及び買掛金が3億7千万円、短期借入金が6億5千万円、その他(流動負債)が4億7百万円それぞれ減少したことなどが主な要因です。

(固定負債)

固定負債につきましては、前連結会計年度末に比べ1億7千4百万円減少し、33億3千3百万円となりました。長期借入金が1億8千9百万円減少したことなどが主な要因です。

(純資産)

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ4千6百万円減少し、116億8千1百万円となりました。利益剰余金が5億1千6百万円増加し、為替換算調整勘定が5億2千6百万円、非支配株主持分が2千9百万円それぞれ減少したことなどが主な要因です。

経営成績

(概要)

当連結会計年度における経営成績等に関する概要につきましては、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1)経営成績等の状況の概要 ①財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりであります。

各損益項目の概要は、以下のとおりであります。

(売上高及び売上原価)

当連結会計年度におきましては、米中通商交渉の進展などを背景に世界経済の回復基調が続いておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、各国で経済活動の停滞が見られ、減速に転じました。当社におきましては、得意先からの受注減少により、電子ペン向けプラスチック部品やデジタルカメラ向け精密プレス部品の売上高は減少いたしました。一方で、付加価値の高い製品の受注に取り組み、自動車関連部品や金型の売上高は増収となりました。また、固定費の削減などに尽力し、省力化に向けた生産体制をより一層強化いたしました。その結果、売上高は208億4千8百万円と前年同期と比べ25億2千7百万円(10.8%)の減収となり、売上原価は169億3千6百万円と前年同期と比べ25億4千6百万円(13.1%)の減少となりました。

以上の結果、当連結会計年度における売上総利益は39億1千1百万円と前年同期と比べ1千9百万円(0.5%)の増益となりました。

(販売費及び一般管理費)

当連結会計年度における販売費及び一般管理費は28億1千6百万円と前年同期と比べ1億1千1百万円(3.8%)の減少となりました。これは、発送運賃が9千9百万円、福利厚生費が1千2百万円、消耗品費が2千3百万円、減価償却費が1千2百万円それぞれ減少し、租税公課が4千7百万円増加したことなどが主な要因です。

その結果、当連結会計年度における営業利益は10億9千5百万円と前年同期と比べ1億3千万円(13.6%)の増益となりました。

(営業外損益)

当連結会計年度における営業外収益は1億2千6百万円と前年同期と比べ8千5百万円(40.4%)の減少となりました。為替差益が1億1千6百万円減少し、受取利息が2千万円増加したことが主な要因です。また、営業外費用は3千8百万円と前年同期と比べ6百万円(18.7%)の増加となりました。為替差損が7百万円増加し、支払利息が1百万円減少したことが主な要因です。

その結果、当連結会計年度における経常利益は11億8千3百万円と前年同期と比べ3千8百万円(3.4%)の増益となりました。

(特別損益)

当連結会計年度において、特別利益として、固定資産売却益2百万円を計上しております。また、特別損失として、投資有価証券評価損1千3百万円、和解金1千5百万円、減損損失1千6百万円を計上しております。

その結果、当連結会計年度における税金等調整前当期純利益は11億3千8百万円と前年同期と比べ6億6百万円(114.1%)の増益となりました。

(親会社株主に帰属する当期純損益)

当連結会計年度において、法人税等、過年度法人税等及び法人税等調整額4億6千4百万円、非支配株主に帰属する当期純利益4千2百万円を計上し、親会社株主に帰属する当期純利益は6億3千1百万円と前年同期と比べ6億1百万円の増益となりました。

経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループの取り扱い品目は、デジタルカメラ、ビデオカメラ、カーナビゲーション部品等、個人消費の動向をはじめ全般的な景気動向が当社グループの業績に影響を与える可能性があります。また、当社グループ内の取引は、基本的に米ドルによる取引であるため為替の動向次第では当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

新型コロナウイルスの感染拡大による影響につきましては、当連結会計年度においては軽微でありましたが、今後は売上高の減少や在庫の増加などが考えられます。

セグメントごとの財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

セグメントごとの財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容につきましては、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 ① 財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりであります。

経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

経営方針・経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等につきましては、特に定めておりませんが、当連結会計年度における売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の計画に対する達成状況は、以下のとおりであります。

	2020年3月期 (計画)	2020年3月期 (実績)	2020年3月期 (計画比)
売上高	22,000百万円	<u>20,848百万円</u>	<u>1,151百万円減</u> (5.2%減)
営業利益	900百万円	<u>1,095百万円</u>	<u>195百万円増</u> (21.7%増)
経常利益	900百万円	<u>1,183百万円</u>	<u>283百万円増</u> (31.4%増)
親会社株主に帰属する当期純利益	550百万円	<u>631百万円</u>	<u>81百万円増</u> (14.7%増)

経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループでは、各部署からの最新の情報等を入手し、今後の事業展開の判断材料となるよう毎週取締役及び各部署長による会議を開催しております。また、経営環境の変化に速やかに対応できるよう、主要な部署に取締役を配置しております。

今後におきましても、取引先の要求に対して、高技術化、スピード化で対応できるよう、当社グループ全体で機敏な営業展開に努めるとともに、積極的に新規分野への進出を視野に入れ事業活動を展開してまいります。特に、主力のデジタル家電機器関連、自動車関連部品を中心とした受注及び収益力の拡大を図り、更なる新事業を開拓するため、設備投資等による新技術の開発や業務の効率化を図ります。また、製造のグローバル化に対応するため海外企業間の直接取引を拡大し、連結業績の向上に努めてまいります。

②キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

キャッシュ・フローの状況につきましては、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1)経営成績等の状況の概要 ②キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

資本の財源及び資金の流動性について

当社グループは、現在、運転資金及び設備投資資金は、内部留保資金及び借入金により調達することと考えております。今後におきましては、国内、ベトナム、中国、マレーシア及びタイへの設備投資を中心に、当社グループの営業活動によるキャッシュ・フローを源泉とし、内部留保資金を優先した財務政策を考えております。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大による世界的な事業の停滞が生じる場合には、在庫の増加などサプライチェーンの停滞による営業キャッシュフローの減少及び人件費をはじめとした固定費の支出によって、資金繰りが悪化する可能性があります。このような場合に備えるため、当社グループは金融機関からの資金調達の確保を図っております。

③重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす見積り及び仮定を用いておりますが、これらの見積り及び仮定に基づく数値は実際の結果と異なる可能性があります。

連結財務諸表の作成にあたって用いた会計上の見積り及び仮定のうち、重要なものは以下のとおりであります。

・固定資産の減損

当社グループは、事業用資産を投資の意思決定単位である各社の事業別に資産のグルーピングを行い、事業単位で割引前将来キャッシュ・フローを見積っております。割引前将来キャッシュ・フローが帳簿価額を下回った場合、帳簿価額を回収可能額まで減額しております。割引前将来キャッシュ・フロー及び回収可能額の見積りは合理的であると考えておりますが、事業計画や経営環境等の前提条件の変化により、割引前将来キャッシュ・フローや回収可能額が減少した場合、減損損失が発生し、損益に影響を与えることがあります。

・繰延税金資産の回収可能性の評価

当社グループは繰延税金資産の回収可能性を評価する際、将来の課税所得を合理的に見積っております。繰延税金資産の全部又は一部を将来回収できないと判断した場合は、評価性引当額を計上しております。繰延税金資産の回収可能性は将来の課税所得の見積りに依存するため、その見積り額が減少した場合、繰延税金資産の減額または評価性引当額を計上することにより税金費用が増額する可能性があります。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響は、今後、2021年3月期の一定期間にわたり継続するという仮定に基づき、繰延税金資産の回収可能性の判断の会計上の見積りを行っております。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は不確定要素が多く、翌連結会計年度の当社グループの財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

当連結会計年度の主な研究開発活動の概要は、次のとおりであります。

当社グループにおけるセグメント別の研究開発活動は、プラスチック成形事業における当社が所有する金型の設計・加工、プラスチックの成形・組立・加飾の技術開発であります。

当連結会計年度におきましては、案件ごとに個別プロジェクトを発足し、各部署が連携して技術開発を進めております。プロジェクトの体系では、独立した組織ではなく、費用区分が困難なため、研究開発費としての算出をしておりません。なお、特許出願件数は2件であります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、生産設備の増強、生産合理化・作業効率化などを目的とした設備投資を継続的に実施しております。なお、有形固定資産の他、無形固定資産への投資を含めて記載しております。

当連結会計年度の設備投資の総額は896百万円であり、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

(1) プラスチック成形事業

当連結会計年度の主な設備投資は、カメラ関連部品、自動車関連部品及び医療関連製品の量産受注に伴う生産能力の拡充、並びに金型生産能力の増強のためムトーベトナムCO.,LTD.、ムトーテクノロジーハノイCO.,LTD.、豊武光電(蘇州)有限公司及びムトー(タイランド)CO.,LTD.の各海外生産拠点において射出成形機、二色成形機、塗装設備、マシニングセンター、周辺機器等478百万円を含む総額870百万円の投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

(2) 精密プレス部品事業

当連結会計年度の主な設備投資は、画像寸法測定器、画像処理センサを含む総額10百万円の投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

(3) プリント基板事業

当連結会計年度の主な設備投資は、CADの購入を含む15百万円の投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

2020年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
岐阜工場 (岐阜県各務原市)	プラスチック 成形事業	プラスチック 部品製造 設備	416,667 [8,642]	443,262	392,999 (10,472) [16,470]	13,771	1,266,700	95 (28)
本社 (岐阜県各務原市)	プラスチック 成形事業	金型の 製造、 販売管 理施設	41,163	24,226	187,592 (5,658) [—]	188,235	441,218	94 (2)
テクニカル センター (岐阜県岐阜市)	プラスチック 成形事業	プラスチック 部品製造 設備	48,576	174,788	86,790 (6,600) [—]	1,634	311,790	20 (1)

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。
 2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
 3. 帳簿価額は、減損損失計上後の金額であります。
 4. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品及びリース資産の合計であります。
 5. 建物及び土地の一部を賃借しております。(年間賃借料69,110千円)
 なお、連結会社以外からの賃借面積(㎡)は [] で外書きしております。
 6. 上記中、従業員数欄の(外書)は、臨時従業員数であります。

(2) 国内子会社

2020年3月31日現在

会社名 (所在地)	セグメント の名称	設備内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
大英エレクトロ ニクス(株) (東京都八王子市)	プリント 基板事業	プリン ト配線 基板設 計検査 設備	43,915	10,514	217,240 (1,772)	8,498	280,168	25 (—)
タチバナ精機(株) (大阪府東大阪市)	精密プレス 部品事業	精密プ レス部 品の製 造設備	9,798 [2,117]	16,130	21,800 (358) [547]	9,863	57,592	33 (25)

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。
 2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
 3. 帳簿価額は、減損損失計上後の金額であります。
 4. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品及び建設仮勘定の合計であります。
 5. 建物及び土地の一部を賃借しております。
 なお、連結会社以外からの賃借面積(㎡)は [] で外書きしております。
 6. 上記中、従業員数欄の(外書)は、臨時従業員数であります。

(3) 在外子会社

2020年3月31日現在

会社名 (所在地)	セグメント の名称	設備内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
ムトーベトナム CO., LTD. (ベトナム ビエンホア市)	プラスチック 成形事業	プラスチ ック成形 部品及び 金型設備	340,456	766,005	— [52,000]	87,400	1,193,863	1,372 (146)
ムトーシンガポ ールPTE LTD (シンガポール アンソソロード)	プラスチック 成形事業	—	— [104]	18,693	—	263	18,957	7 (—)
豊武光電(蘇州) 有限公司 (中華人民共和国 江蘇省 太倉市)	プラスチック 成形事業	プラスチ ック成形 部品及び 金型設備	352,062	643,258	— [45,955]	143,674	1,138,995	703 (—)
ムトーテクノロ ジーハノイ CO., LTD. (ベトナム ハノイ市)	プラスチック 成形事業	プラスチ ック成形 部品及び 金型設備	535,052	515,051	— [40,000]	95,613	1,145,717	1,134 (—)
ハントンスプリ ングインダスト リーズSDN. BHD. (マレーシア ジョホール)	精密プレス 部品事業	精密プレ ス部品の 製造設備	1 [1,716]	6	— [10,266]	6	14	84 (72)
ムトー(タイラン ド)CO., LTD. (タイランド サラブリー県)	プラスチック 成形事業	プラスチ ック成形 部品及び 金型設備	461,528	221,028	242,335 [53,994]	119,354	1,044,248	229 (5)

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。
2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
3. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品及び建設仮勘定の合計であります。
4. 建物及び土地の一部を賃借しております。
なお、連結会社以外からの賃借面積(㎡)は [] で外書きしております。
5. 上記中、従業員数欄の(外書)は、臨時従業員数であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末において計画中である重要な設備の新設、除却等は次のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2020年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年6月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	7,739,548	7,739,548	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	7,739,548	7,739,548	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③ 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2004年12月22日	670,000	7,739,548	335,670	2,188,960	335,589	2,211,687

(注) 一般募集(スプレッド方式)670千株

発行価格 1,068円

発行価額 1,001.88円

資本組入額 501円

(5) 【所有者別状況】

2020年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	—	11	23	44	32	7	2,271	2,388	—
所有株式数 (単元)	—	16,464	2,753	8,574	10,050	27	39,453	77,321	7,448
所有株式数 の割合(%)	—	21.29	3.56	11.09	13.00	0.03	51.03	100.00	—

(注) 自己株式552,784株は、「個人その他」に5,527単元、「単元未満株式の状況」に84株含まれております。
なお、株主名簿上の自己株式数と実保有数は同数であります。

(6) 【大株主の状況】

2020年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する 所有株式数の割合(%)
田中 肇	岐阜市	488	6.80
株式会社大垣共立銀行	大垣市郭町3丁目98番地	328	4.58
株式会社十六銀行	岐阜市神田町8丁目26番地	270	3.77
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番11号	247	3.45
名古屋中小企業投資育成株式会社	名古屋市中村区名駅南1丁目16番30号	247	3.44
BH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (常任代理人 株式会社三菱UFJ 銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U. S. A. (東京都千代田区丸の内2丁目7番1 号 決済事業部)	234	3.26
ムトー精工従業員持株会	各務原市鶴沼川崎町1丁目60番地の1	232	3.23
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	220	3.06
国立大学法人岐阜大学	岐阜市柳戸1番1	200	2.78
野村信託銀行株式会社	東京都千代田区大手町2丁目2番2号	125	1.75
計	—	2,595	36.12

(注) 上記のほか当社所有の自己株式552千株があります。

(注) 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	247千株
野村信託銀行株式会社	125 "

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 552,700	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,179,400	71,794	—
単元未満株式	普通株式 7,448	—	—
発行済株式総数	7,739,548	—	—
総株主の議決権	—	71,794	—

② 【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) ムトー精工株式会社	岐阜県各務原市鶴沼 川崎町一丁目60番地の1	552,700	—	552,700	7.14
計	—	552,700	—	552,700	7.14

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他(一)	—	—	—	—
保有自己株式数	552,784	—	552,784	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、2020年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社の配当政策は、安定配当として1株につき16円と、これに連結業績連動分とを合わせた1株当たり年間配当の配当性向が20%程度になることを目標としております。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

当期の期末配当につきましては、当社の配当方針どおり、1株当たり9円50銭の配当金とさせていただくことに決定いたしました。

内部留保資金の使途につきましては、急速な技術革新に対応した設備投資や経営体質の一層の充実並びに将来の事業展開に役立てる予定であります。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たりの配当額
2019年11月8日 取締役会決議	57,494	8円00銭
2020年6月25日 定時株主総会決議	68,274	9円50銭

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

① コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、企業価値の継続的な増大を目指し、公正かつ透明な企業行動を遵守し、経営判断の迅速、正確性を図るとともに、内部統制システムを整備し、経営の透明性を図るため、取締役会、監査役会、監査室及び会計監査人による体制のもとに企業活動を行っております。

② 企業統治の体制

当社は、企業間競争力を強化し、経営判断の迅速かつ正確性を図るとともに、経営の透明性を図り、コンプライアンス遵守の経営を徹底するため、経営チェック機能の充実を重要課題としており、以下の体制のもと企業活動を行っております。

当社は監査役制度を採用しており、取締役会・監査役会の各機関があります。

当社の取締役会は、迅速かつ的確な経営判断ができるように、2020年6月25日現在、取締役5名(田中肇(代表取締役社長)、熊沢健次、金大洲、金子貞夫、牛丸正詞(社外取締役))で構成されており、月例取締役会において経営並びに業務執行に関する報告及び決定が行われ、また、必要に応じて臨時に開催され、重要事項は必ず取締役会による決議がされております。

当社の監査役会は、2020年6月25日現在、3名(五島昌良(監査役(常勤))、元雄幸人(社外監査役)、所寿弥(社外監査役))で構成され、常勤が1名、非常勤2名で2名とも社外監査役であります。監査役全員は、月例の取締役会に出席し、必要に応じ経営に対しての意見、助言を行っております。また、内部統制システムの構築について指導、提言を行っており、積極的に社内の各種会議にも出席し、取締役の業務遂行を監視できる体制となっており、必要に応じて監査法人等の社外との意見交換も積極的にを行い効率的かつ効果的な監査を実施しております。

従いまして、当社では監査役による客観的な経営監視機能が十分整っているものと判断し、現状の体制を採用しております。

また、毎週全取締役及び各部署長による経営会議を開催し、各部署間の意見交換を緊密に行うとともに相互牽制を図り、厳重な内部管理体制のもと、経営判断の正確性を図っております。

当社の内部統制システムにつきましては、監査室を中心に、国内外の関係会社を含めた業務プロセスのリスクの洗い出し、管理及び対応策の検討を行い、不正行為等の防止を図っております。

当社のリスク管理体制といたしましては、社外からの監査機能を充実させるため、当社及び連結子会社について、それぞれ公認会計士又は監査法人による通常の会計監査を受けており、重要な会計的課題について随時相談・検討を実施しております。また、必要に応じて弁護士などの専門家からの経営判断上の助言を受ける体制になっており、経営に対し法的なコントロール機能が働くようになっております。

上記のリスク管理及び法令遵守体制を今後一層強化し、企業倫理の徹底、不祥事の防止及び企業の社会的責任に対する取組みを推進しております。

③ 社外取締役及び社外監査役の責任限定契約の概要

当社は、社外取締役及び社外監査役が期待される役割を十分発揮できるよう、会社法第427条第1項に基づき、社外取締役及び社外監査役との間において、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、法令が定める額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、社外取締役及び社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

④ 取締役の定数

当社の取締役は9名以内とする旨を定款で定めております。

⑤ 自己株式取得の決定機関

当社は、自己株式の取得について、機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

⑥ 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議について、議決権を行使できる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

⑦ 内部統制システムの構築に係る取締役会の決議内容

取締役会の職務の遂行が、法令及び定款に適合することを確保するための体制、その他会社の業務の適正性を確保するための体制についての決議内容は以下のとおりであります。

イ 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制、その他業務の適正を確保するための体制

当社は、コンプライアンスの強化を基本方針に掲げ、取締役及び使用人に法令、定款及び社内規程の遵守を徹底するとともに、コンプライアンス体制の構築及び維持・向上を推進する。

監査室は、各部門及びグループ各社の業務遂行、コンプライアンスの状況等について内部監査を実施する。

特に環境面、安全面において関係法令に違反した業務執行のないように、環境専門部門及び安全衛生委員会にて、全社的な管理を実施する。

また、法令遵守の観点から、これに反する行為、反倫理的行為等についての社内報告体制として、内部通報制度を構築し運用する。

ロ 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社は、取締役会をはじめとする重要な会議の意思決定に係る記録や各取締役が職務権限規程に基づいて決裁した文書等は適正に記録し、法令及び社内規程に従い保管する。

ハ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

社長を委員長とし、各部門長である役員、使用人から構成するリスクマネジメント委員会をおき、基本方針のもと各部門のリスクマネジメント業務を統括する。

リスク管理に係る規程を制定し、各部門においては、担当職務の業務内容を整理し、内在するリスクを把握・分析・評価したうえで適切な対策を実施するとともに、定期的にリスクマネジメントの見直しを行う。

当社グループの経営に重大な影響を与えるリスクが発現した場合に備え、予め必要な対応方針を整理し、リスクが顕在化した場合には、損失を最小限にとどめるための必要な対応を行う。

監査室は、各部門及びグループ各社におけるリスク管理の状況を監査し、定期的にその結果を社長に報告する。

ニ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、毎月1回、定例の取締役会を開催し、取締役規程に定めた重要事項の決定と業務執行に関する報告を行い、また、必要に応じて適宜取締役会を開催する。

当社の監査役は、月例の取締役会に出席し、経営に対する意見、助言を行い、取締役の職務遂行を監視できる体制を確保する。更に内部監査体制の確保を図り、当社及びグループ会社を対象にした内部監査を実施する。

ホ 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

グループ各社の経営については、その自主性を尊重しつつ、協議事項、報告事項を定めた子会社管理規程に従い、重要事項の決定、情報の共有化を図るとともに、当社グループのコンプライアンス体制を構築する。

監査室は、子会社の内部監査部門と連携して、当社グループの業務全般の内部統制の有効性と妥当性を確保するため、内部監査を実施する。

ヘ 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

監査役を補助すべき使用人の求めに応じて、監査役の業務補助のため配置する。

人事に関しては、担当取締役と監査役で意見交換を行い了承を得ることとする。

ト 監査役の職務を補助すべき使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役より監査業務に必要な指示を受けた使用人は、その期間中、指示に関して、取締役の指揮命令を受けないものとする。

チ 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制及びその他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

取締役及び使用人は、当社グループの信用、業務、財務に著しい影響、損害を及ぼす恐れのある事実を発見したときは、法令に従い社長への報告と同時に監査役に報告する。

常勤監査役は、取締役会のほか社内の会議、委員会に積極的に出席し重要な報告を受ける体制をとるほか、重要な稟議書、その他業務執行に関する重要な文書を閲覧し、必要に応じて取締役又は使用人に説明を求めることとする。

また、内部通報制度による通報情報についても、担当取締役より社長への報告と同時に監査役へ報告するものとする。

監査役と社長は、定期的会合をもち、意見交換を行う。

また、監査役は監査室と密接な連携を保ち、監査室に調査を求めることにより、監査役監査の実効性の確保を図る。

リ 財務報告の信頼性を確保するための体制

経理課及び監査室は、財務報告の信頼性を確保し、金融庁より2006年6月に公布された金融商品取引法第24条の4の4に定める内部統制報告書の提出を有効かつ適切に行うため、代表取締役社長の指示のもと、財務報告に係る内部統制を整備し、運用する体制を構築する。

ヌ 反社会的勢力に対する体制

- (a) 当社グループは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及びその団体に対しては、一切の関係を持たない。
- (b) 反社会的勢力に対しては、管理部を対応統括部門として、必要に応じて所轄警察署、顧問弁護士等の外部専門機関と連携し対応する。

⑧ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、出席した当該株主の議決権の過半数をもって決める旨を定款に定めております。また、取締役の選任決議は累積投票によらない旨も定款に定めております。

⑨ 中間配当の決定機関

当社は、株主への機動的な利益還元ができるよう、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

⑩ 取締役及び監査役の責任免除

当社は、職務の遂行に当たり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、取締役及び監査役(取締役及び監査役であった者を含む。)の会社法第423条第1項の損害賠償責任につき善意でかつ重大な過失がない場合は、取締役会の決議をもって法令の定める限度において、その責任を免除することができる旨を定款に定めております。

(2) 【役員の状況】

① 役員一覧

男性8名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	田 中 肇	1962年12月15日生	1986年4月 当社入社 1993年4月 経理課長 1995年6月 ムトーベトナムCO., LTD. 取締役 1997年6月 取締役 1997年12月 取締役 海外事業本部長 1999年6月 常務取締役 2000年6月 専務取締役 2000年10月 ムトーシンガポールPTE LTD 代表取締役社長(現任) 2001年5月 代表取締役社長(現任) 2002年4月 ムトーベトナムCO., LTD. 代表取締役社長(現任) 2003年9月 大英エレクトロニクス㈱ 代表取締役会長(現任) 2003年11月 豊武光電(蘇州)有限公司 副董事長 2005年2月 ムトーテクノロジーハノイ CO., LTD. 代表取締役社長(現任) 2005年9月 武藤香港有限公司 代表取締役社長(現任) 2006年3月 武藤精密工業(太倉)有限公司 董事長 2006年6月 豊武光電(蘇州)有限公司 董事長(現任) 2007年1月 タチバナ精機㈱ 取締役 2007年1月 ハントンスプリングインダストリー ZSDN. BHD. 取締役(現任) 2012年2月 ムトー(タイランド)CO., LTD. 代表取締役(現任) 2015年5月 タチバナ精機㈱ 代表取締役会長(現任)	(注) 3	488,402
専務取締役 製造本部 担当	熊 沢 健 次	1953年4月7日生	1979年10月 当社入社 1999年2月 金型部長 2000年6月 取締役 金型部長 2007年1月 タチバナ精機㈱取締役(現任) 2007年4月 常務取締役 技術・製造部門長 2011年12月 常務取締役 技術・製造担当 2013年11月 常務取締役 国内事業部門担当 2015年2月 ムトーテクノロジーハノイ CO., LTD. 取締役(現任) 2015年3月 ムトーベトナムCO., LTD. 取締役(現任) 2015年3月 ムトーシンガポールPTE LTD 取締役(現任) 2015年3月 武藤香港有限公司 取締役(現任) 2015年3月 ハントンスプリングインダストリー ZSDN. BHD. 取締役(現任) 2015年4月 常務取締役 製造本部本部長 2015年6月 専務取締役 製造本部担当(現任)	(注) 3	22,800

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役 中国事業 部門担当	金 大 洲	1961年7月30日生	2003年10月 2004年5月 2007年5月 2012年5月 2012年5月 2015年6月	当社入社 豊武光電(蘇州)有限公司 管理部部长、製造部副部长 豊武光電(蘇州)有限公司 副總經理 豊武光電(蘇州)有限公司 總經理(現任) 豊武光電(蘇州)有限公司 董事(現任) 取締役 中国事業部門担当 (現任)	(注) 3	—
取締役 管理本部 担当	金 子 貞 夫	1965年2月17日生	1991年8月 2004年5月 2009年7月 2015年4月 2015年5月 2015年6月	当社入社 管理部経理課課長 管理部部長 管理本部本部長 タチバナ精機㈱ 取締役(現任) 取締役 管理本部担当(現任)	(注) 3	33,400
取締役	牛 丸 正 詞	1947年10月2日生	1973年11月 1984年3月 2005年5月 2006年10月 2015年6月	扶桑監査法人入社 公認会計士登録 税理士登録 公認会計士税理士牛丸正詞事務 所 開設(現任) 取締役(現任)	(注) 3	—
監査役 (常勤)	五 島 昌 良	1962年4月4日生	1986年4月 2008年10月 2020年4月 2020年6月 2020年6月 2020年6月	当社入社 当社金型部長 当社金型部(現任) 大英エレクトロニクス㈱ 監査役(現任) タチバナ精機㈱ 監査役(現任) 常勤監査役(現任)	(注) 4	8,000
監査役	元 雄 幸 人	1970年3月14日生	2000年4月 2009年7月 2011年8月 2011年9月 2012年1月 2016年6月	公認会計士登録 仰星監査法人入社 税理士登録 仰星監査法社員(現任) 元雄会計事務所 開設(現任) 監査役(現任)	(注) 4	—
監査役	所 寿 弥	1974年12月17日生	2001年10月 2001年10月 2004年4月 2020年6月	大久保・所法律事務所入所 弁護士登録 所法律事務所 開設(現任) 監査役(現任)	(注) 4	—
計						552,602

- (注) 1. 取締役 牛丸正詞は、社外取締役であります。
2. 監査役 元雄幸人及び所寿弥は、社外監査役であります。
3. 取締役の任期は、2019年3月期に係る定時株主総会終結の時から2021年3月期に係る定時株主総会終結の時
までであります。
4. 監査役の任期は、2020年3月期に係る定時株主総会終結の時から2024年3月期に係る定時株主総会終結の時
までであります。

5. 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くこととなる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
井 上 学	1964年12月10日生	1994年10月 1999年4月 2012年9月 2014年11月	中央監査法人入社 公認会計士登録 税理士登録 公認会計井上学会計事務所 開設(現任)	(注)	—

(注) 補欠監査役の任期は、就任した時から退任した監査役の任期の満了の時までであります。

② 社外役員の状況

イ 員数

当社の社外取締役は1名であり、社外監査役は2名であります。

ロ 社外取締役及び社外監査役の選任状況に関する提出会社の考え方

社外取締役及び社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準及び方針は定めておりませんが、選任にあたっては証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にしております。

ハ 社外取締役及び社外監査役が提出会社の企業統治において果たす機能及び役割

社外取締役の機能は、その専門知識と経験を活かし、経営陣より独立した立場で、取締役の法令遵守、経営管理に対する的確な助言や監督することと考えております。

牛丸正詞氏は、公認会計士としての経験・識見が豊富であり、当社の倫理に捉われず、法令を含む企業社会全体を踏まえた客観的視点で、独立性をもって経営の監視を遂行することができると判断し、社外取締役に選任しております。

社外監査役の機能は、取締役会における意思決定及び取締役の職務執行等について、専門的見地から厳正な監査をすることと考えております。

元雄幸人氏は、公認会計士としての専門的な知識・経験が豊富であり、当社の論理に捉われず、法令を含む企業社会全体を踏まえた客観的視点で、独立性をもって経営の監視を遂行するに適任であると考え、また所寿弥氏は、弁護士として企業法務及び税務に精通しており、当社のコーポレートガバナンス、内部統制等これらに伴う取締役の義務の遂行が妥当かどうか法律面から判断できると考え、それぞれ社外監査役に選任しております。社外監査役は定期的に監査室との意見交換等を行い、問題点については取締役会、監査役会に報告する体制となっております。また、監査法人と定期的に意見、情報の交換を積極的に行い、監査の実効性の向上を図っております。

ニ 社外取締役及び社外監査役と提出会社との人的関係、資本的關係又は取引関係その他の利害関係

社外取締役牛丸正詞氏は2020年3月31日現在当社株式を所有しておらず、当社と同氏との間において資本的關係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

また、同氏は公認会計士税理士牛丸正詞事務所の代表を務めておりますが、当社と同事務所との間に人的関係、資本的關係及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。

東京証券取引所 J A S D A Q (スタンダード) の定める独立性に関する基準に適合し、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことから、当社は同氏を独立役員に指定しております。

社外監査役元雄幸人氏は2020年3月31日現在当社株式を所有しておらず、当社と同氏との間において資本的關係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

また、同氏は元雄会計事務所の代表を務めておりますが、当社と同事務所との間に人的関係、資本的關係及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。

東京証券取引所 J A S D A Q (スタンダード) の定める独立性に関する基準に適合し、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことから、当社は同氏を独立役員に指定しております。

社外監査役所寿弥氏は2020年3月31日現在当社株式を所有しておらず、その他に当社と同氏との間において資本的關係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

また、同氏は所法律事務所の代表を務めておりますが、当社と同事務所との間に人的関係、資本的關係及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。

東京証券取引所 J A S D A Q (スタンダード) の定める独立性に関する基準に適合し、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことから、当社は同氏を独立役員に指定しております。

(3) 【監査の状況】

① 監査役監査の状況

当社における監査役監査は、当社の監査役が取締役会及びその他社内の重要な会議に出席し、取締役からの営業報告、重要な決裁書類等の閲覧を行い経営の妥当性、効率性を監査しております。2020年6月25日現在、人員は3名で、常勤が1名、非常勤2名で2名とも社外監査役であります。

当事業年度において当社は監査役会を月1回以上開催しており、個々の監査役の出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
森 佳実	14回	14回
大久保 等	14回	13回
元雄 幸人	14回	14回

監査役会における主な検討事項は、監査方針及び監査計画の策定、内部統制システムの整備・運用状況、会計監査人の監査の実施状況及び職務の執行状況等です。

また、常勤の監査役の活動として、取締役会をはじめとした社内の重要な会議や委員会への出席並びに結果報告の確認、稟議書やその他業務執行に関する重要な文書の閲覧及び内容の確認などを行っております。

② 内部監査の状況

当社における内部監査は、監査役及び監査役会が定期的に監査室との意見交換等を行い、問題点等については取締役会、監査役会に報告する体制となっております。また、監査法人と定期的に意見、情報の交換を積極的に行い、監査の実効性の向上を図っております。

また、内部監査機能の有効性を強化するため、監査室は代表取締役社長直轄の組織体制となっております。監査室は定期的に各部署の業務内容を監査し、業務の効率性等を監査しております。2020年6月25日現在、人員は2名で、その他に内部監査機能として、品質、環境等の監査も他の専門スタッフと連携して監査をしております。また、監査役会、監査法人との意見交換等も行い、内部監査の独立性を高めております。

③ 会計監査の状況

a. 監査法人の名称

有限責任 あずさ監査法人

b. 継続監査期間

13年間

c. 業務を執行した公認会計士

豊田 裕一

大橋 敦司

d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士5名、その他9名であります。

e. 監査法人の選定方針と理由

当社は、会計監査人の選定及び評価に際しては、当社の広範な業務内容に対応して効率的な監査業務を実施することができる一定の規模と世界的なネットワークを持つこと、審査体制が整備されていること、監査日数、監査期間及び具体的な監査実施要領並びに監査費用が合理的かつ妥当であること、さらに監査実績などにより総合的に判断いたします。また、日本公認会計士協会の定める「独立性に関する指針」に基づき独立性を有することを確認するとともに、必要な専門性を有することについて検証し、確認いたします。

f. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社の監査役及び監査役会は、監査法人に対して評価を行っており、同法人による会計監査は、会計監査人の適格性・独立性を害する事由等の発生はなく、適正な監査の遂行が可能であると評価しております。

④監査報酬の内容等

a. 公認会計士等に対する報酬

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	28,800	—	28,800	—
連結子会社	—	—	—	—
計	28,800	—	28,800	—

b. 監査公認会計士等と同一のネットワーク（KPMG税理士法人）に対する報酬（a.を除く）

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	—	2,904	—	2,924
連結子会社	—	—	—	—
計	—	2,904	—	2,924

当社における非監査業務の内容は、移転価格文書の策定業務であります。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

当社の監査公認会計士等に対する報酬につきましては、監査公認会計士等より提示された監査計画及び監査報酬見積資料に基づき、監査公認会計士等と協議したうえで決定しております。

なお、会社法の定めにより監査役会の同意を得たうえで決定しております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

会計監査人に対する報酬等に対して、当社の監査役会が会社法第399条第1項の同意をした理由は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、取締役、社内関係部門及び会計監査人からの必要な資料の入手や報告の聴取を通じて、前事業年度における職務執行状況や報酬見積りの算定根拠、並びに当事業年度の会計監査人の監査計画の内容及び報酬額の見積りの妥当性を検討した結果、適切であると判断したためであります。

(4) 【役員報酬等】

① 役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針について、株主総会で決定する報酬総額の限度内で、分掌業務、同業・同規模の他社との比較、及び社員給与との均衡等を考慮して決定することを基本方針としております。

取締役の報酬等は、取締役会より一任された代表取締役社長が決定しております。監査役の報酬等は、監査役会の協議により決定しております。

当社の現在の報酬体系は、固定報酬のみで、業績連動報酬は導入しておりません。

なお、当事業年度における当社取締役の報酬等の額の決定過程における取締役会の活動は、2019年6月25日開催の取締役会において、取締役の報酬額を代表取締役社長に一任する旨の決議を行い、代表取締役社長が決定しております。

取締役の報酬限度額は、1992年11月27日開催の第32期定時株主総会において年額2億円以内と決議されております。

監査役の報酬限度額は、1992年11月27日開催の第32期定時株主総会において年額2千万円以内と決議されております。

② 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	69,500	59,760	—	9,740	4
監査役 (社外監査役を除く。)	8,710	8,040	—	670	1
社外役員	4,940	4,560	—	380	3

(注) 取締役の報酬額には、使用人兼務役員の使用人分給与は含まれておりません。

③ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

① 投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、投資株式について、当該株式が安定的な取引関係の構築や成長戦略に則った業務提携関係の維持・強化に繋がり、当社の中長期的な企業価値の向上に資すると判断して保有する株式を純投資目的である投資株式、それ以外の株式を純投資目的以外の目的である投資株式に区分しております。

② 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、取引先との安定的・長期的な取引関係の維持及び強化等の観点から、中長期的な企業価値向上に資すると判断される場合に、当該取引先等の株式を取得し保有することを基本方針としております。

また、当社の取締役会では、保有株式ごとに保有目的の適切性や、保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているかを定期的に検証しております。検証の結果、継続保有が適切ではないと認められる銘柄は、株価や市場動向等を考慮のうえ遅滞なく売却いたします。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	—	—
非上場株式以外の株式	4	146,428

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	—	—	
非上場株式以外の株式	3	1,208	株式累積投資及び配当の再投資による取得のため

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(千円)
非上場株式	—	—
非上場株式以外の株式	—	—

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
株式会社大垣共立銀行	43,054	42,798	円滑な関係維持のために保有しております。株式数の増加は、株式累積投資によるものです。	有
	93,644	98,437		
株式会社十六銀行	14,525	14,261	円滑な関係維持のために保有しております。株式数の増加は、株式累積投資によるものです。	有
	27,379	32,060		
株式会社三菱UFJ フィナンシャル・グループ	57,100	57,100	円滑な関係維持のために保有しております。	有
	23,011	31,405		
日本特殊陶業株式会社	1,572	1,572	円滑な関係維持のために保有しております。株式数の増加は、配当の再投資によるものです。	無
	2,393	3,229		

みなし保有株式

該当事項はありません。

③ 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

④ 当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したもの

該当事項はありません。

⑤ 当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したもの

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

また、金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき、有価証券報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による監査を受けております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,968,318	6,777,546
受取手形及び売掛金	※4 3,769,461	3,189,600
電子記録債権	629,950	534,005
商品及び製品	694,652	674,308
仕掛品	911,471	891,484
原材料及び貯蔵品	1,249,967	1,191,503
未収入金	187,321	184,488
その他	325,890	182,943
貸倒引当金	△1,450	△1,300
流動資産合計	14,735,583	13,624,580
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	※1, ※3 2,136,169	※1, ※3 2,249,224
機械装置及び運搬具（純額）	※1 3,193,247	※1 2,832,968
土地	※3 1,154,541	※3 1,148,758
リース資産（純額）	—	※1 2,445
建設仮勘定	530,876	102,941
その他（純額）	※1 386,781	※1 562,930
有形固定資産合計	7,401,617	6,899,268
無形固定資産	212,478	231,233
投資その他の資産		
投資有価証券	191,381	146,428
退職給付に係る資産	125,600	90,093
繰延税金資産	4,452	3,409
その他	135,900	154,302
貸倒引当金	△2,885	△2,885
投資その他の資産合計	454,450	391,348
固定資産合計	8,068,545	7,521,850
資産合計	22,804,129	21,146,431

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※4 2,165,642	1,795,252
短期借入金	※3 2,800,000	2,150,000
1年内返済予定の長期借入金	※3 1,252,396	1,292,396
未払法人税等	109,073	80,877
賞与引当金	215,254	195,082
その他	※4 1,024,612	617,064
流動負債合計	<u>7,566,978</u>	<u>6,130,672</u>
固定負債		
長期借入金	※3 2,850,502	※3 2,660,946
繰延税金負債	263,670	263,447
役員退職慰労引当金	144,918	158,178
退職給付に係る負債	229,640	239,619
その他	19,593	11,580
固定負債合計	<u>3,508,324</u>	<u>3,333,771</u>
負債合計	<u>11,075,303</u>	<u>9,464,444</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,188,960	2,188,960
資本剰余金	2,246,168	2,246,168
利益剰余金	7,736,794	8,253,142
自己株式	△397,883	△397,883
株主資本合計	<u>11,774,039</u>	<u>12,290,387</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△13,636	△20,279
為替換算調整勘定	△720,100	△1,246,692
その他の包括利益累計額合計	<u>△733,737</u>	<u>△1,266,972</u>
非支配株主持分	688,524	658,572
純資産合計	<u>11,728,826</u>	<u>11,681,987</u>
負債純資産合計	<u>22,804,129</u>	<u>21,146,431</u>

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
売上高	23,376,127	20,848,629
売上原価	※1 19,483,354	※1 16,936,727
売上総利益	3,892,773	3,911,902
販売費及び一般管理費		
発送運賃	713,676	614,096
報酬及び給料手当	1,051,453	1,037,551
賞与引当金繰入額	68,371	73,562
退職給付費用	22,084	29,532
役員退職慰労引当金繰入額	12,880	13,260
福利厚生費	198,045	185,618
消耗品費	146,095	122,436
減価償却費	94,088	81,794
地代家賃及びリース料	107,688	106,314
保険料	17,411	16,682
租税公課	67,474	114,642
交際費	23,250	19,700
その他	405,869	401,521
販売費及び一般管理費合計	2,928,388	2,816,715
営業利益	964,384	1,095,186
営業外収益		
受取利息	72,182	93,041
受取配当金	5,285	5,468
為替差益	116,856	—
その他	18,361	28,213
営業外収益合計	212,687	126,723
営業外費用		
支払利息	32,064	30,400
為替差損	—	7,729
その他	384	381
営業外費用合計	32,448	38,511
経常利益	1,144,623	1,183,399
特別利益		
固定資産売却益	※2 4,704	※2 2,173
特別利益合計	4,704	2,173
特別損失		
固定資産除却損	※3 24,625	※3 1,117
投資有価証券評価損	—	13,319
和解金	—	15,836
減損損失	※4 593,049	※4 16,973
特別損失合計	617,674	47,247
税金等調整前当期純利益	531,653	1,138,325
法人税、住民税及び事業税	300,397	289,786
過年度法人税等	72,383	173,499
法人税等調整額	68,233	1,061
法人税等合計	441,014	464,347
当期純利益	90,638	673,978
非支配株主に帰属する当期純利益	61,108	42,641

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益	29,530	631,336

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
当期純利益	90,638	673,978
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△33,675	△6,642
為替換算調整勘定	40,899	△577,752
その他の包括利益合計	※ 7,223	※ △584,395
包括利益	97,862	89,582
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	54,965	98,101
非支配株主に係る包括利益	42,896	△8,518

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,188,960	2,246,096	7,951,614	△397,883	11,988,786
当期変動額					
剰余金の配当			△244,349		△244,349
親会社株主に帰属する当期純利益			29,530		29,530
連結子会社株式の取得による持分の増減		72			72
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					—
当期変動額合計	—	72	△214,819	—	△214,747
当期末残高	2,188,960	2,246,168	7,736,794	△397,883	11,774,039

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	20,038	△779,211	△759,173	677,484	11,907,098
当期変動額					
剰余金の配当			—		△244,349
親会社株主に帰属する当期純利益			—		29,530
連結子会社株式の取得による持分の増減			—		72
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△33,675	59,111	25,435	11,040	36,476
当期変動額合計	△33,675	59,111	25,435	11,040	△178,271
当期末残高	△13,636	△720,100	△733,737	688,524	11,728,826

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,188,960	2,246,168	<u>7,736,794</u>	△397,883	<u>11,774,039</u>
当期変動額					
剰余金の配当			△114,988		△114,988
親会社株主に帰属する当期純利益			<u>631,336</u>		<u>631,336</u>
連結子会社株式の取得による持分の増減					—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					—
当期変動額合計	—	—	<u>516,348</u>	—	<u>516,348</u>
当期末残高	2,188,960	2,246,168	<u>8,253,142</u>	△397,883	<u>12,290,387</u>

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△13,636	△720,100	△733,737	688,524	<u>11,728,826</u>
当期変動額					
剰余金の配当			—		△114,988
親会社株主に帰属する当期純利益			—		<u>631,336</u>
連結子会社株式の取得による持分の増減			—		—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△6,642	△526,592	△533,234	△29,952	△563,187
当期変動額合計	△6,642	△526,592	△533,234	△29,952	<u>△46,839</u>
当期末残高	△20,279	△1,246,692	△1,266,972	658,572	<u>11,681,987</u>

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	531,653	1,138,325
減価償却費	1,542,251	1,140,605
減損損失	593,049	16,973
訴訟関連損失	—	15,836
有形固定資産除却損	24,625	1,117
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	40	△150
賞与引当金の増減額 (△は減少)	4,837	△16,368
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	4,411	13,260
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	18,236	15,050
受取利息及び受取配当金	△77,468	△98,510
支払利息	32,064	30,400
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	13,319
有形固定資産売却損益 (△は益)	△4,704	△2,173
売上債権の増減額 (△は増加)	790,585	563,450
たな卸資産の増減額 (△は増加)	300,374	△4,874
仕入債務の増減額 (△は減少)	△346,571	△313,054
未払消費税等の増減額 (△は減少)	33,099	77,697
その他	△125,441	123,847
小計	3,321,042	2,714,753
利息及び配当金の受取額	77,438	98,617
利息の支払額	△31,415	△30,829
法人税等の支払額	△383,680	△491,953
法人税等の還付額	1,739	29,215
訴訟和解金の支払額	—	△15,836
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,985,124	2,303,968
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△437,043	△473,905
定期預金の払戻による収入	414,805	417,822
有価証券の純増減額 (△は増加)	192,916	—
有形固定資産の取得による支出	△2,002,132	△1,211,031
有形固定資産の売却による収入	7,866	3,729
無形固定資産の取得による支出	△31,671	△48,648
その他	△36,895	8,664
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,892,154	△1,303,368
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	176,000	△650,000
長期借入れによる収入	900,000	1,200,000
長期借入金の返済による支出	△1,328,512	△1,349,556
子会社の自己株式の取得による支出	△713	—
配当金の支払額	△243,708	△114,940
非支配株主への配当金の支払額	—	△29,881
その他	△18,298	△12,105
財務活動によるキャッシュ・フロー	△515,232	△956,483
現金及び現金同等物に係る換算差額	139,349	△270,320
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	717,086	△226,204
現金及び現金同等物の期首残高	5,923,531	6,640,617
現金及び現金同等物の期末残高	※ 6,640,617	※ 6,414,412

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数 9社

主要な連結子会社名

「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

2. 持分法の適用に関する事項

関連会社はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、ムトーベトナムCO.,LTD.、ムトーシンガポールPTE LTD、豊武光電(蘇州)有限公司、ムトーテクノロジーハノイCO.,LTD.、武藤香港有限公司、ハントンスプリングインダストリーズSDN. BHD. 及びムトー(タイランド)CO.,LTD. の決算日は、12月31日であります。

連結財務諸表の作成に当たっては、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。なお、その他の連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

② デリバティブ

時価法

③ たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

イ 製品

プラスチック部品等

移動平均法

金型

個別法

ロ 原材料

移動平均法

ハ 仕掛品

プラスチック部品等

総平均法

金型

個別法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産(リース資産を除く)

主として定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 2～50年

機械装置及び運搬具 2～10年

② 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、また、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

③ 役員退職慰労引当金

当社及び内規を有する国内連結子会社は、役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職一時金制度については、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とし、企業年金制度については、直近の年金財政計算上の数理債務をもって退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期的な投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会 (IASB) 及び米国財務会計基準審議会 (FASB) は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取り扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中でありませ

(追加情報)

(新型コロナウイルスの感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

当社グループは、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が少なくとも一定期間続くとの仮定のもと、繰延税金資産の回収可能性の判断等の会計上の見積りを会計処理に反映しております。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大による影響は不確定要素が多く、翌連結会計年度の当社グループの財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(連結貸借対照表関係)

※1. 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
建物及び構築物	4,247,767千円	4,260,701千円
機械装置及び運搬具	10,621,694千円	10,499,127千円
リース資産	4,990千円	5,555千円
その他	6,797,637千円	6,859,743千円
計	21,672,090千円	21,625,127千円

2. 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
受取手形裏書譲渡高	3,415千円	671千円

※3. 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
建物	137,791千円	109,992千円
土地	433,389千円	433,389千円
計	571,180千円	543,381千円

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
短期借入金	84,992千円	－千円
長期借入金	935,008千円	1,020,000千円
(うち、1年内返済予定の長期借入金)	99,996千円	－千円
計	1,020,000千円	1,020,000千円

※4. 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
受取手形	820千円	－千円
支払手形	21,029千円	－千円
設備支払手形	7,127千円	－千円

(連結損益計算書関係)

※1. 期末たな卸高は収益性の低下による簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれておりません。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
	152,223千円	159,480千円

※2. 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
機械装置及び運搬具	2,908千円	1,910千円
その他	1,795千円	263千円
計	4,704千円	2,173千円

※3. 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
建物及び構築物	438千円	140千円
機械装置及び運搬具	13,987千円	348千円
その他	10,198千円	628千円
計	24,625千円	1,117千円

※ 4. 減損損失

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

場所	用途	種類	減損損失額
岐阜県各務原市	事業用資産 (プラスチック成形事業)	建物	9,837千円
		機械装置	39,229千円
		工具器具備品	429,470千円
		土地	40,512千円
		その他	74,000千円

当社グループは、事業用資産を投資の意思決定単位である各社の事業別に資産のグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、営業活動から生じる損益が継続してマイナスであることから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(593,049千円)として特別損失に計上しております。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、正味売却価額は鑑定評価額から処分費用見込額を控除して算定しております。また、転用が困難な資産については売却価額を零として評価しております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

場所	用途	種類	減損損失額
JOHOR, MALAYSIA	事業用資産 (精密プレス部品事業)	機械装置	14,055千円
		工具器具備品	2,918千円

当社グループは、事業用資産を投資の意思決定単位である各社の事業別に資産のグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、営業活動から生じる損益が継続してマイナスであることから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(16,973千円)として特別損失に計上しております。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、正味売却価額は鑑定評価額から処分費用見込額を控除して算定しております。また、転用が困難な資産については売却価額を零として評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	△33,919千円	△20,217千円
組替調整額	－千円	13,319千円
税効果調整前	△33,919千円	△6,897千円
税効果額	243千円	254千円
その他有価証券評価差額金	△33,675千円	△6,642千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	40,899千円	△577,752千円
組替調整額	－千円	－千円
税効果調整前	40,899千円	△577,752千円
税効果額	－千円	－千円
為替換算調整勘定	40,899千円	△577,752千円
その他の包括利益合計	7,223千円	△584,395千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	7,739	—	—	7,739

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	552	0	—	552

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年6月26日 定時株主総会	普通株式	186,855	26.00	2018年3月31日	2018年6月27日
2018年11月9日 取締役会	普通株式	57,494	8.00	2018年9月30日	2018年12月11日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	57,494	8.00	2019年3月31日	2019年6月26日

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	7,739	—	—	7,739

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	552	—	—	552

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月25日 定時株主総会	普通株式	57,494	8.00	2019年3月31日	2019年6月26日
2019年11月8日 取締役会	普通株式	57,494	8.00	2019年9月30日	2019年12月10日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年6月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	68,274	9.50	2020年3月31日	2020年6月26日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
現金及び預金	6,968,318千円	6,777,546千円
預入期間が3か月を超える定期預金	△327,701千円	△363,134千円
現金及び現金同等物	6,640,617千円	6,414,412千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、必要に応じて短期的な運転資金や設備資金などを銀行借入により調達しております。また、一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用しております。

デリバティブ取引は、外貨建取引の為替相場変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金、電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。投資有価証券は、主に取引先企業との業務に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほとんどが4か月以内の支払期日であります。また、その一部には、原料等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されておりますが、恒常的に同じ外貨建ての売掛金残高の範囲内にあります。

借入金は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で5年後であります。

デリバティブ取引は、外貨建金銭債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、営業債権について、各取引先ごとに期日管理及び残高管理を行うとともに、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、同様の管理を行っております。

デリバティブ取引は、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(5) 信用リスクの集中

当期の連結決算日現在における営業債権のうち55.2%が特定の大口顧客に対するものであります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(2019年3月31日)

	連結貸借対照表 計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	6,968,318	6,968,318	—
(2) 受取手形及び売掛金	<u>3,769,461</u>	<u>3,769,461</u>	—
(3) 電子記録債権	629,950	629,950	—
(4) 未収入金	187,321	187,321	—
(5) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	211,406	211,406	—
(6) 投資その他の資産その他 (長期性預金)	1,200	1,200	0
資産計	<u>11,767,658</u>	<u>11,767,659</u>	0
(1) 支払手形及び買掛金	2,165,642	2,165,642	—
(2) 短期借入金	2,800,000	2,800,000	—
(3) 未払法人税等	<u>109,073</u>	<u>109,073</u>	—
(4) 長期借入金(※1)	4,102,898	4,130,831	27,933
負債計	<u>9,177,613</u>	<u>9,205,547</u>	27,933
デリバティブ取引(※2)	(11,565)	(11,565)	—

(※1) 1年内返済予定の長期借入金は、長期借入金に含めて表示しております。

(※2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

当連結会計年度(2020年3月31日)

	連結貸借対照表 計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	6,777,546	6,777,546	—
(2) 受取手形及び売掛金	3,189,600	3,189,600	—
(3) 電子記録債権	534,005	534,005	—
(4) 未収入金	184,488	184,488	—
(5) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	172,397	172,397	—
(6) 投資その他の資産その他 (長期性預金)	21,850	21,852	2
資産計	10,879,888	10,879,891	2
(1) 支払手形及び買掛金	1,795,252	1,795,252	—
(2) 短期借入金	2,150,000	2,150,000	—
(3) 未払法人税等	<u>80,877</u>	<u>80,877</u>	—
(4) 長期借入金(※1)	3,953,342	3,975,787	22,445
負債計	<u>7,979,471</u>	<u>8,001,916</u>	22,445
デリバティブ取引(※2)	(30,528)	(30,528)	—

(※1) 1年内返済予定の長期借入金は、長期借入金に含めて表示しております。

(※2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法及びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 電子記録債権、並びに(4) 未収入金

これらはすべて短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(6) 長期性預金

長期性預金については、元利金の合計額を同様の新規預金を行った場合に想定される利率で割り引いて算定しております。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、並びに(3) 未払法人税等

これらはすべて短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

これらの時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

為替予約取引の時価については、取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(注2) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	6,968,318	—	—	—
受取手形及び売掛金	3,769,461	—	—	—
電子記録債権	629,950	—	—	—
未収入金	187,321	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの(社債)	20,000	26,000	—	—
投資その他の資産その他(長期性預金)	—	1,200	—	—
合計	11,575,052	27,200	—	—

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	6,777,546	—	—	—
受取手形及び売掛金	3,189,600	—	—	—
電子記録債権	534,005	—	—	—
未収入金	184,488	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの(社債)	26,000	—	—	—
投資その他の資産その他(長期性預金)	—	21,850	—	—
合計	10,711,641	21,850	—	—

(注3) 長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	2,800,000	—	—	—	—	—
長期借入金	1,252,396	1,052,396	879,906	508,600	333,600	76,000
合計	4,052,396	1,052,396	879,906	508,600	333,600	76,000

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	2,150,000	—	—	—	—	—
長期借入金	1,292,396	1,117,746	748,600	573,600	221,000	—
合計	3,442,396	1,117,746	748,600	573,600	221,000	—

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2019年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	34,634	11,946	22,687
債券	20,024	20,000	24
その他	—	—	—
小計	54,658	31,946	22,712
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	130,497	165,684	△35,186
債券	26,249	26,969	△720
その他	—	—	—
小計	156,747	192,653	△35,906
合計	211,406	224,600	△13,194

当連結会計年度(2020年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	25,405	11,947	13,457
債券	—	—	—
その他	—	—	—
小計	25,405	11,947	13,457
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	121,023	153,571	△32,547
債券	25,968	26,969	△1,001
その他	—	—	—
小計	146,992	180,541	△33,549
合計	172,397	192,489	△20,092

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

3. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、有価証券について13,319千円(その他有価証券の株式13,319千円)減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引
通貨関係
前連結会計年度(2019年3月31日)

	種類	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価	評価損益
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建 タイパーツ	1,047,000	—	△11,565	△11,565
	合計	1,047,000	—	△11,565	△11,565

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(2020年3月31日)

	種類	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価	評価損益
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建 タイパーツ	835,000	—	△30,528	△30,528
	合計	835,000	—	△30,528	△30,528

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

前連結会計年度(2019年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2020年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の国内連結子会社は、確定給付型の制度として、確定給付型退職年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、一部の海外子会社においても、確定給付型の制度を設けております。

なお、当社及び連結子会社が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債、退職給付に係る資産及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
退職給付に係る資産の期首残高	△124,136千円	△125,600千円
退職給付に係る負債の期首残高	208,188千円	229,640千円
退職給付費用	80,355千円	113,752千円
退職給付の支払額	△23,670千円	△23,736千円
制度への拠出額	△39,947千円	△39,386千円
その他	3,250千円	△5,142千円
退職給付に係る資産の期末残高	△125,600千円	△90,093千円
退職給付に係る負債の期末残高	229,640千円	239,619千円

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	594,447千円	620,530千円
年金資産	△720,048千円	△710,623千円
	△125,600千円	△90,093千円
非積立型制度の退職給付債務	229,640千円	239,619千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	104,040千円	149,526千円
退職給付に係る資産	△125,600千円	△90,093千円
退職給付に係る負債	229,640千円	239,619千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	104,040千円	149,526千円

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度 80,355千円 当連結会計年度 113,752千円

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	35,683千円	32,902千円
未払事業税	4,786千円	5,139千円
未払社会保険料	4,591千円	4,816千円
投資有価証券	79,760千円	83,818千円
退職給付に係る負債	32,504千円	35,251千円
役員退職慰労引当金	44,626千円	48,729千円
減損損失	491,705千円	376,269千円
税務上の繰越欠損金	<u>952,396千円</u>	<u>1,044,205千円</u>
その他	<u>29,617千円</u>	<u>23,662千円</u>
繰延税金資産小計	<u>1,675,671千円</u>	<u>1,654,795千円</u>
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)	<u>△952,396千円</u>	<u>△1,044,205千円</u>
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	<u>△718,823千円</u>	<u>△607,181千円</u>
評価性引当額小計	<u>△1,671,219千円</u>	<u>△1,651,386千円</u>
繰延税金資産合計	<u>4,452千円</u>	<u>3,409千円</u>
繰延税金負債		
建物圧縮記帳積立金	△20,881千円	△20,350千円
その他有価証券評価差額金	△654千円	△400千円
在外連結子会社の留保利益	△242,133千円	△242,697千円
繰延税金負債合計	<u>△263,670千円</u>	<u>△263,447千円</u>
繰延税金資産の純額	<u>△259,218千円</u>	<u>△260,038千円</u>

(注) 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度 (2019年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)	24,723	<u>134,232</u>	<u>6,606</u>	<u>3,672</u>	<u>28,673</u>	<u>754,488</u>	<u>952,396千円</u>
評価性引当額	△24,723	<u>△134,232</u>	<u>△6,606</u>	<u>△3,672</u>	<u>△28,673</u>	<u>△754,488</u>	<u>△952,396千円</u>
繰延税金資産	—	—	—	—	—	—	一千円

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

当連結会計年度 (2020年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(b)	<u>128,421</u>	<u>6,322</u>	<u>3,514</u>	<u>28,673</u>	209,563	<u>667,709</u>	<u>1,044,205千円</u>
評価性引当額	<u>△128,421</u>	<u>△6,322</u>	<u>△3,514</u>	<u>△28,673</u>	△209,563	<u>△667,709</u>	<u>△1,044,205千円</u>
繰延税金資産	—	—	—	—	—	—	一千円

(b) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
法定実効税率	30.5%	30.5%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.6%	6.7%
外国子会社からの配当等に係る外国源泉税	6.1%	<u>3.0%</u>
住民税等均等割	1.0%	0.5%
在外連結子会社の留保利益	12.9%	<u>—%</u>
在外連結子会社の税率差異	△30.7%	<u>△13.7%</u>
過年度法人税等	13.6%	<u>15.2%</u>
評価性引当額	<u>44.5%</u>	<u>△1.7%</u>
その他	<u>1.5%</u>	0.3%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	<u>83.0%</u>	<u>40.8%</u>

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、プラスチック成形事業、精密プレス部品事業及びプリント基板事業の3つの事業ユニットを基本にして組織が構成されており、各事業ユニット単位で、日本及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社は、「プラスチック成形事業」、「精密プレス部品事業」及び「プリント基板事業」の3つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「プラスチック成形事業」は、プラスチック成形用金型及びプラスチック精密部品の製造・販売、各種設計業務並びに技術支援等のサービス業務を、「精密プレス部品事業」は、音響機器、映像機器、光学機器、コンピュータ関連機器等の精密プレス部品の製造・販売を、「プリント基板事業」は、プリント配線基板の設計・検査・販売を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	連結財務諸表計上額
	プラスチック成形事業	精密プレス部品事業	プリント基板事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	21,271,636	1,766,061	338,429	23,376,127	—	23,376,127
セグメント間の内部売上高又は振替高	23,757	55,159	—	78,917	△78,917	—
計	21,295,394	1,821,221	338,429	23,455,044	△78,917	23,376,127
セグメント利益又はセグメント損失(△)	938,128	△18,204	44,460	964,384	—	964,384
セグメント資産	20,336,953	1,832,635	815,205	22,984,794	△180,664	22,804,129
セグメント負債	10,886,840	204,854	164,272	11,255,967	△180,664	11,075,303
その他の項目						
減価償却費	1,504,147	24,222	13,881	1,542,251	—	1,542,251
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	2,292,485	13,570	25,260	2,331,316	—	2,331,316
減損損失	593,049	—	—	593,049	—	593,049

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の合計は、連結財務諸表の営業利益と一致しております。

2. セグメント資産及びセグメント負債の調整額△180,664千円は、セグメント間の債権債務消去であります。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	連結財務諸表計上額
	プラスチック成形事業	精密プレス部品事業	プリント基板事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	19,341,548	1,217,862	289,217	20,848,629	—	20,848,629
セグメント間の内部売上高又は振替高	24,317	50,358	1,560	76,236	△76,236	—
計	19,365,866	1,268,221	290,777	20,924,865	△76,236	20,848,629
セグメント利益又はセグメント損失(△)	1,208,317	△134,960	21,829	1,095,186	—	1,095,186
セグメント資産	18,935,246	1,575,870	813,542	21,324,658	△178,227	21,146,431
セグメント負債	9,346,627	148,286	147,757	9,642,671	△178,227	9,464,444
その他の項目						
減価償却費	1,108,365	18,371	13,869	1,140,605	—	1,140,605
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	870,391	10,324	15,547	896,263	—	896,263
減損損失	—	16,973	—	16,973	—	16,973

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の合計は、連結財務諸表の営業利益と一致しております。

2. セグメント資産及びセグメント負債の調整額△178,227千円は、セグメント間の債権債務消去であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	ベトナム	中国	台湾	タイ	その他アジア	その他	合計
8,883,520	5,658,341	3,085,795	1,392,129	2,605,720	960,086	790,532	23,376,127

(注) 売上高は、顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(表示方法の変更)

前連結会計年度において、「その他アジア」に含まれていた「タイ」の売上高は重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。また、前連結会計年度において独立掲記しておりました「米州」「欧州」の売上高は重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	ベトナム	中国	タイ	その他アジア	合計
2,205,555	2,702,480	1,260,807	1,187,645	45,128	7,401,617

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
Canon Vietnam Co., Ltd.	3,402,445	プラスチック成形事業

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	ベトナム	中国	台湾	タイ	その他アジア	その他	合計
8,513,614	5,003,328	2,591,922	383,759	2,582,742	921,422	851,839	20,848,629

(注) 売上高は、顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	ベトナム	中国	タイ	その他アジア	合計
2,357,471	2,339,581	1,138,995	1,044,248	18,972	6,899,268

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
Canon Vietnam Co., Ltd.	2,574,257	プラスチック成形事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

	報告セグメント				計	全社・消去	合計
	プラスチック成形事業	精密プレス部品事業	プリント基板事業				
減損損失	593,049	—	—	593,049	—	593,049	

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				計	全社・消去	合計
	プラスチック成形事業	精密プレス部品事業	プリント基板事業				
減損損失	—	16,973	—	16,973	—	16,973	

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり純資産額	1,536円20銭	1,533円85銭
1株当たり当期純利益	4円11銭	87円85銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	29,530	631,336
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る 親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	29,530	631,336
普通株式の期中平均株式数(株)	7,186,764	7,186,764

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	11,728,826	11,681,987
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	688,524	658,572
(うち非支配株主持分(千円))	(688,524)	(658,572)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	11,040,301	11,023,415
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(株)	7,186,764	7,186,764

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	2,800,000	2,150,000	0.2936	—
1年以内に返済予定の長期借入金	1,252,396	1,292,396	0.5382	—
1年以内に返済予定のリース債務	10,976	10,458	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	2,850,502	2,660,946	0.5382	2021年4月 ～ 2025年1月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	19,593	11,580	—	2021年4月 ～ 2024年2月
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	6,933,468	6,125,381	—	—

(注) 1. 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

なお、リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、「平均利率」を記載しておりません。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	1,117,746	748,600	573,600	221,000
リース債務	8,227	2,642	711	—

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	<u>5,565,746</u>	<u>11,256,569</u>	<u>16,443,630</u>	<u>20,848,629</u>
税金等調整前四半期(当期)純利益 (千円)	<u>325,236</u>	<u>809,185</u>	<u>981,302</u>	<u>1,138,325</u>
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	<u>237,607</u>	<u>434,986</u>	<u>511,643</u>	<u>631,336</u>
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	<u>33.06</u>	<u>60.53</u>	<u>71.19</u>	<u>87.85</u>

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	<u>33.06</u>	<u>27.46</u>	<u>10.67</u>	<u>16.65</u>

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,136,650	628,271
受取手形	17,697	28,276
売掛金	※1 1,537,883	※1 1,468,780
電子記録債権	391,930	348,469
商品及び製品	195,031	232,214
仕掛品	196,222	160,201
原材料及び貯蔵品	185,870	157,586
前払費用	15,168	13,256
未収入金	※1 860,674	※1 594,498
未収消費税等	10,449	—
その他	1,539	1,093
流動資産合計	4,549,118	3,632,648
固定資産		
有形固定資産		
建物	※2 160,816	※2 506,408
機械及び装置	641,307	642,278
工具、器具及び備品	—	201,195
土地	※2 662,282	※2 667,382
リース資産	—	2,445
建設仮勘定	400,481	—
有形固定資産合計	1,864,888	2,019,710
投資その他の資産		
投資有価証券	165,132	146,428
関係会社株式	1,034,567	1,034,567
出資金	1,500	1,500
関係会社出資金	5,310,285	5,310,285
関係会社長期貸付金	1,047,000	835,000
その他	142,572	112,542
貸倒引当金	△125	△125
投資その他の資産合計	7,700,931	7,440,199
固定資産合計	9,565,820	9,459,909
資産合計	14,114,938	13,092,557

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	※1, ※3 806,040	※1 651,929
買掛金	※1 593,833	※1 584,094
短期借入金	※2 2,800,000	2,150,000
関係会社短期借入金	170,000	170,000
1年内返済予定の長期借入金	※2 1,252,396	1,292,396
未払金	182,328	117,415
未払費用	73,241	71,358
未払法人税等	19,336	20,578
未払消費税等	—	2,142
預り金	22,860	22,826
賞与引当金	94,388	92,341
設備関係支払手形	※3 255,592	2,297
為替予約	11,565	30,528
その他	11,011	10,458
流動負債合計	6,292,594	5,218,367
固定負債		
長期借入金	※2 2,850,502	※2 2,660,946
繰延税金負債	21,536	20,750
役員退職慰労引当金	126,371	137,161
その他	19,593	11,580
固定負債合計	3,018,004	2,830,438
負債合計	9,310,598	8,048,805
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,188,960	2,188,960
資本剰余金		
資本準備金	2,211,687	2,211,687
その他資本剰余金	24,025	24,025
資本剰余金合計	2,235,713	2,235,713
利益剰余金		
利益準備金	94,667	94,667
その他利益剰余金		
圧縮記帳積立金	47,673	46,459
繰越利益剰余金	648,363	895,326
利益剰余金合計	790,704	1,036,453
自己株式	△397,883	△397,883
株主資本合計	4,817,493	5,063,242
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△13,153	△19,490
評価・換算差額等合計	△13,153	△19,490
純資産合計	4,804,340	5,043,752
負債純資産合計	14,114,938	13,092,557

②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
売上高	※1 8,224,158	※1 8,171,500
売上原価	※1 7,549,664	※1 7,063,247
売上総利益	674,494	1,108,253
販売費及び一般管理費	※1,※2 1,091,851	※1,※2 1,062,912
営業利益	△417,357	45,341
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	※1 851,916	※1 472,311
雑収入	14,762	11,612
営業外収益合計	866,679	483,923
営業外費用		
支払利息	※1 33,692	※1 31,680
為替差損	1,359	93,488
雑損失	12,428	8,573
営業外費用合計	47,479	133,742
経常利益	401,841	395,522
特別損失		
固定資産除却損	558	—
投資有価証券評価損	—	13,319
和解金	—	15,836
減損損失	593,049	—
特別損失合計	593,608	29,156
税引前当期純利益	△191,766	366,366
法人税、住民税及び事業税	6,276	6,160
法人税等調整額	△542	△531
法人税等合計	5,733	5,629
当期純利益	△197,500	360,737

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	2,188,960	2,211,687	24,025	2,235,713
当期変動額				
剰余金の配当				—
当期純利益又は当期純損失(△)				—
圧縮記帳積立金の取崩				—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				—
当期変動額合計	—	—	—	—
当期末残高	2,188,960	2,211,687	24,025	2,235,713

	株主資本			
	利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		その他利益剰余金		
		圧縮記帳積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	94,667	48,911	1,088,975	1,232,554
当期変動額				
剰余金の配当			△244,349	△244,349
当期純利益又は当期純損失(△)			△197,500	△197,500
圧縮記帳積立金の取崩		△1,238	1,238	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				—
当期変動額合計	—	△1,238	△440,611	△441,850
当期末残高	94,667	47,673	648,363	790,704

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△397,883	5,259,343	20,304	20,304	5,279,648
当期変動額					
剰余金の配当		△244,349		—	△244,349
当期純利益又は当期純損失(△)		△197,500		—	△197,500
圧縮記帳積立金の取崩		—		—	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)		—	△33,457	△33,457	△33,457
当期変動額合計	—	△441,850	△33,457	△33,457	△475,307
当期末残高	△397,883	4,817,493	△13,153	△13,153	4,804,340

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	2,188,960	2,211,687	24,025	2,235,713
当期変動額				
剰余金の配当				—
当期純利益又は当期純損失(△)				—
圧縮記帳積立金の取崩				—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				—
当期変動額合計	—	—	—	—
当期末残高	2,188,960	2,211,687	24,025	2,235,713

	株主資本			
	利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		その他利益剰余金		
		圧縮記帳積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	94,667	47,673	648,363	790,704
当期変動額				
剰余金の配当			△114,988	△114,988
当期純利益又は当期純損失(△)			360,737	360,737
圧縮記帳積立金の取崩		△1,213	1,213	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				—
当期変動額合計	—	△1,213	246,962	245,749
当期末残高	94,667	46,459	895,326	1,036,453

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△397,883	4,817,493	△13,153	△13,153	4,804,340
当期変動額					
剰余金の配当		△114,988		—	△114,988
当期純利益又は当期純損失(△)		360,737		—	360,737
圧縮記帳積立金の取崩		—		—	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)		—	△6,337	△6,337	△6,337
当期変動額合計	—	245,749	△6,337	△6,337	239,412
当期末残高	△397,883	5,063,242	△19,490	△19,490	5,043,752

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

② その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) デリバティブ

時価法

(3) たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

① 製品

プラスチック部品

移動平均法

金型

個別法

② 原材料

移動平均法

③ 仕掛品

プラスチック部品

総平均法

金型

個別法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 2～47年

機械及び装置 2～8年

工具、器具及び備品 2～20年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

(ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。)

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、また、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産に基づき、当事業年度末において発生していると認められている額を計上しております。なお、当事業年度末においては、年金資産の額が退職給付債務を超過しているため、当該超過額を前払年金費用として貸借対照表の投資その他の資産「その他」に計上しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(追加情報)

(新型コロナウイルスの感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

当社は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が少なくとも一定期間続くとの仮定のもと、繰延税金資産の回収可能性の判断等の会計上の見積りを会計処理に反映しております。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大による影響は不確定要素が多く、翌事業年度の当社の財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(貸借対照表関係)

※1. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
短期金銭債権	925,805千円	654,870千円
短期金銭債務	285,453千円	283,762千円

※2. 担保に供している資産及び担保に係る債務

(1) 担保に供している資産

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
建物	137,791千円	109,992千円
土地	433,389千円	433,389千円
計	571,180千円	543,381千円

(2) 担保に係る債務

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
短期借入金	84,992千円	－千円
1年内返済予定の長期借入金	99,996千円	－千円
長期借入金	835,012千円	1,020,000千円
計	1,020,000千円	1,020,000千円

※3. 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
支払手形	21,029千円	－千円
設備関係支払手形	7,127千円	－千円

(損益計算書関係)

※1. 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	661,929千円	619,443千円
仕入高	2,125,697千円	1,733,009千円
その他	603千円	2,138千円
営業取引以外の取引による取引高		
収入分	847,447千円	467,650千円
支出分	423千円	428千円

※2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
発送運賃	209,385千円	210,392千円
従業員給料及び手当	349,869千円	340,304千円
賞与引当金繰入額	27,995千円	27,674千円
退職給付費用	11,429千円	22,556千円
役員退職慰労引当金繰入額	10,505千円	10,790千円
減価償却費	32,428千円	20,702千円
おおよその割合		
販売費	35%	36%
一般管理費	65%	64%

(有価証券関係)

子会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
子会社株式	1,034,567	1,034,567

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	28,750千円	28,127千円
未払事業税	4,786千円	5,139千円
未払社会保険料	3,560千円	4,373千円
投資有価証券	79,760千円	83,818千円
役員退職慰労引当金	38,492千円	41,779千円
子会社出資金	408,798千円	408,798千円
減損損失	483,125千円	368,353千円
税務上の繰越欠損金	663,699千円	783,160千円
その他	7,995千円	8,407千円
繰延税金資産小計	1,718,970千円	1,731,956千円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	△663,699千円	△783,160千円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△1,055,270千円	△948,796千円
評価性引当額小計	△1,718,970千円	△1,731,956千円
繰延税金資産合計	－千円	－千円
繰延税金負債		
建物圧縮記帳積立金	△20,881千円	△20,350千円
その他有価証券評価差額金	△654千円	△400千円
繰延税金負債合計	△21,536千円	△20,750千円
繰延税金資産の純額	△21,536千円	△20,750千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
法定実効税率	－%	30.5%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	－%	2.1%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	－%	△36.0%
評価性引当額	－%	3.4%
住民税等均等割	－%	1.0%
その他	－%	0.6%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	－%	1.5%

(注) 前事業年度は税引前当期純損失のため記載を省略しております。

④【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	160,816	387,777	5,100	37,085	506,408	1,659,104
	構築物	—	—	—	—	—	60,833
	機械及び装置	641,307	140,917	—	139,946	642,278	2,244,546
	車両運搬具	—	—	—	—	—	24,987
	工具、器具及び備品	—	260,279	—	59,084	201,195	5,688,193
	土地	662,282	5,100	—	—	667,382	—
	リース資産	—	3,009	—	564	2,445	5,555
	建設仮勘定	400,481	2,138	402,619	—	—	—
	計	1,864,888	799,222	407,719	236,680	2,019,710	9,683,220

(注) 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	第5工場	10式	371,042千円
機械装置	3Dスキャナ3次元測定器	1台	8,800千円
	射出成形機	4台	49,200千円
	塗装治具洗浄装置	1台	25,224千円
工具、器具及び備品	射出成型用金型	10台	79,477千円

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	125	125	125	125
賞与引当金	94,388	92,341	94,388	92,341
役員退職慰労引当金	126,371	10,790	—	137,161

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	名古屋市中央区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。 ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載しております。 当社の公告掲載URLは、次のとおりであります。 https://www.muto.co.jp/ir/koukoku
株主に対する特典	なし

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。
 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第59期（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日） 2019年6月25日東海財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2019年6月25日東海財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

第60期 第1四半期（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日） 2019年8月9日東海財務局長に提出。

第60期 第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日） 2019年11月8日東海財務局長に提出。

第60期 第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日） 2020年2月7日東海財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書

2019年6月25日東海財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

2022年9月13日

ムトー精工株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

名古屋事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大谷 浩二

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大橋 敦司

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているムトー精工株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の訂正後の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ムトー精工株式会社及び連結子会社の2020年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の事項

有価証券報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の連結財務諸表に対して2020年6月25日に監査報告書を提出しているが、当該訂正に伴い、訂正後の連結財務諸表に対して本監査報告書を提出する。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。